令和6年度

年間授業計画

第一学年



東京都立大島高等学校

〒100-0101 東京都大島町元町字八重の水127

TEL:04992 (2) 1431

FAX:04992 (2) 2461

| 部者: (1報:市川) (2報:栗山) 科書: (高等学校 現代の国語(第一学習社) | (3組:下川) | | |) | | | |
|---|--|--------------|--|--|--------|-----|------|
| 周語 知 施 及 び 技 施 生産にわたる社会生活に必要な国話について、その特質を理解し適切に使うことができる。 参考力、判断力、表現力等。生産にわたる社会生活における他者との限わりの中で伝え合う力を高め、思考かを感像が1 学びに向かう力、人間性等。言葉のもつ価値への認識を認めるとともに、言語感覚を過ぎ、表が国の言語文化の担い手(| を伸ばす。 | n節力の向 F を図る! | (皮を振う) | | | | |
| 現代の開展 「知識及び其他) に必要な業績の知識や対象を合作者がもようにする。 | の目標: 【思考カ・利斯 論理的に考えるカや深く共略したり豊か との関わりの中で低え合う力を高め、自 することができるようにする。 | カ、表現力等】 | | 【学びに向かうカ、人間性等】 | 見しみき者や | 自己注 | を向に関 |
| 単元の具体的な指導目標 | 推進項目 - 內容 | 領域 | | 評価現象 | , | 0 8 | 8 |
| 「本項の品台」20世 (学科学一版) (現在) 1988年 (日本) との間低にからて理解する。 時分が、物が、大規令がよび確認とがあるとも、関係の中しかや説明の仕方を考えるとともに表現の仕方を工夫する 後によった。1987年 (日本) では、日本) では、日本) というには、日本) は、日本) は | - [指導事項] 電影の単位、要約、意見と理由 - (数材] 数付書、ノート、ワーク、LT指本など 【一人 1 台級の活用】 今後の授業に向けて、LT指本に優れる | M-M 4 | # 映 【知 主思: (と学) (反論) | 組設び採制 組織技ど特徴と情報と情報との関係について理解して内容を提むことができる 方、、判断力、原度力等 こことにおいて自分の考えが明確に知らなり、機構のポし方や衰弱の仕方を考え にことになって自分の考えが重性があるとさできる がポーンとによって自分の主張のほしるを維持する権能の仕方を理解し、私り強く論 を使用しまるとする機能やする作業のとなって自分の主張のほしるを維持する権能の仕方を理解し、私り強く論 を使用しまるとする情報を持てもなって自分の主張のほとを維持する権能の仕方を理解し、私り強く論 | . る (理 | 0 | 0 |
| 連接的た政権』(アルグラ CV アルビ南) 連接な対策は、「無難的、機能する方法を連絡する 身内、施助、規模は、これはいて、自分の大土が横に行ったうちの構成や保護を工作する アプランアが出身を発力して、自分の大土が横に行ったうちの構成や保護を工作する アプランアが出身を発力して、最早を開発しまりまする | - 【指導李涓】 プログラミング的思考法、施理展開 - 【教材】/ート、ワーク、ICT編本など #4 【人」と確認の店舗】 授業内容に応じて適宜扱う | 0 | 【知 必要: 【思: | 集と世間とようですの意味を呼下ことかできている 並の研究を対象を は、 が表現を が表現を ができた。 でこと、同て、ことにおいて、自分の考えが明確に伝わるとう話の構成や領側を工夫 びに命わり、人間が終し グラウング的思考を名につけ、思考を態度しようとしている。 | | 00 | 0 |
| Kの支配』 Limit ED 郊の高瀬が成出めなて大ち間節の仕がたつかて両輪する 身後の、加添り、原型の 受ける、加添り、原型の ボリストルの ボリス ボリス ボリス ボリス ボリス ボリス ボリス ボリス | - [指導事項] 対は構造: 誰と何の関係 - (教材・人・ト、ワーク、ICT端末など - (一人) 上海水の店用] 校東内容に応じて適宜使う | | | 製皮は接動 の機能的なあるでことは接触の仕方について解析できる 方力、相振力、原電力制 によっによいて変かの機能を踏まえて内容や構成、動理の展開などについて収定を になった。 に取出されてない。 に対していてないが、 に対していていない。 に対していていたが、 に対していていたが、 に対していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい | * | 0 | 0 |
| を必رが最近の取り取り項目を存在する。 は違なり対象に対する。 は違なり対象に対する。 はあり、対象に対する。 はあり、対象に対する。 はいない、対象に対する。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | - 【指導李用】 レポートの作成、および発表 - 【数付】 ランプ、ゲームなど 「二人」と推案の使用】 ICT編末を用いたレポート作成を置す | | | 東及び技術) 後の側に後野する方法と理解できる 力な、報節が、 大型にあった。 大型にあった。 大型にあった。 を関係している。 を理解しようとする を理解しようとする | | 0 0 | 0 |
| 別考生(1 宇宙や関考記) (のたことは2 (参本学点) 機能力性機能) 記念機能之対策とは一般が同様について機能する 形式を必要などなどである。 初めたとしておいてななの機能を発えるでお客で機能、機能の隔板などについて初述を起こ的確に変え、質別や複点を把握する 可以に高いうか、人間物態) | - 【指導事項】 主張と臨後、現後語 - 【表材】 - 【表材】 - 【一人」 1 台級家の活用】 - 第一人、1 台級家の活用】 | | ○ 【知道 主張》 【思述 「該終 ○ 【こ等で | 製造に採動 ・ 通称で行動と情報の関係について同梱できる カル、制能力、最大が開 としているというに対してなるの情報を含まるで介容や構成、議員の展開などについて仮定を がに応わらか。人類的問 がに応わらか。人類的問 となる様々を目標で変ねし、表現の仕方を工夫して説明しようとしている | * | 0 | 0 |
| 作の主張はなく。其体的を言葉で変数し、表現の仕分を工夫して説明しようとする おうかが超レンスト」(小楽文音楽) 言葉の小様を分裂、素似の物色を含まえ、正確さ、分かりやする、遠切さかどに知道した表現について発酵を抱めて使う まて、また。 なくしてはいて、のののおよが確認に知らなくも、機能の中しが奇観の仕方を考えるとともに、表現の仕方をエネする はびまった。 ないました。 ではた。またが、といった。 ではた。またが、といった。 | - [指導事項] 具体と始後の関係、指彙の知識 - [数材] - [数 // -]、 ワーク、 CT陽末など - [-]、 1 位施家の信息 - (-) 位施家の信息 - (-) 位施家の信息 | | | た動脈に減っては移物で重要して適し、表現の仕方を工夫して資明しようとしている 及び日曜 間の内閣で発生、資化の仲也を指すえ、正確さ、分かりやすさ、適切などどれ必要 が力、物が力、高度が同じ、自然が発生が明晶に扱いるよう、最悪のがしたで表現の代土をで表現が していることにない。自然が発生が明晶に扱いるよう、最悪のがしたで表現の仕上を考 力に応いる力、点面に対し、 | | | 0 |
| 場合では、下級の企会や一つを包囲し、正確し方がパヤドルを参一プミリの 場合では、下級を受ける。 他などのお願えていて、関係と使わている 等なり、「確認し、現在の情報と使わている。 等なり、「確認し、現在の情報をよが明確に名けらより、根拠の申し方や説明の仕方を考えるともは、異現の仕方を工夫する 可以にならかり、人間時間 「可以にならかり、人間時間」 | - 【指導事項】 12年、私(合)活動 - 【教材】 - ト、ワーク、ICT端末など 大(本語の活動) 技術内容に応じて適宜扱う | 4 | 単名の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | に関係・表情の意味ルールを増加し、返職で含むかやすい文を書こうとしている 無処理機関 とが問題について関節を提加しておかさる 力が、開加し、電力等 が、現力が、実現の対象とは対象に似かるよう、機能のボルケを関係の仕力を考え に関係が対象とは対象に似かるよう、機能のボルケを関係の仕力を考え の関係が含える場合である。文章の内容や機能、論例の展開の仕力をどを機能的 ようとしている。 | .6 | | 0 |
| スピーナで自身を終える。 繊維な対象 工事が中機をよるよう。正義ややかかりやする、適切なに配慮した表現を削いる の であった。 大力では、 大力で たり、 大力で 大力で 大力で 大力で 大力で 大力で 大力で 大力で 大力で 大力で | 【指導事項】 「打造事事項】 ビブリナイトル、スピーチ 「接材】 学校図書館もしくは10年にある本など 「一入1 古絵本の店舗】 授業内容に応じて適宜後う | 0 | [908 85 L 2 | あるとしている。 最及び発達] 関係の物種と小まえ、正確さやわかりやすさ、適切さに配慮した表現を用いることが 力力、智能力、規模力制 ことが最くなど、に対して、相手の反応を予想して高速の周囲を考えるなど、話の機 次に向いう方、人間機制 元に向いう方、人間機制 | i e | | - |
| 場今並(1学期末考査) | . Industrial | | 0 | | | 0 | |
| 「実施」とよって何号。創出了 「確認が問題」など、「は関連的で加えいて開新する 身内、部内、原因が増 自身力、部内、原因が増 というに対して実施しまれている情報を由立に関連づけながら、内容や書きずの意図を増加し自分の考えを認める めか仕がに注目して文章の機能をつから、自分の考えをまとめようとする | - (西海事事) 通信展開、事実と意見の違い - 教材 ノート、ワーク、ICT編末など (エー人) 14歳本の活用 授業内容に応じて適宜使う | | 文章の 【思い 「読をす 」 「読をす 」 「接続・ | 製し灯地型 「機能的であかなて下や機能が仕方について関新できる 行力、推動力、原型が割 によっとしにおいて変更を含まれている情報を取立に関連づけながら、内容や書き手の 類類に自分の方とを扱うことができる では用から力、処理していまった。 では用から力、機能がしていまった。 | 18 | 0 | 0 |
| 将基地型、「はお除り入門) 繊維の打造計 は、自然と表現では動き、 は、自然と表現では、 は、自然となっては、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 | - 指導車項 ・ 指導車項 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 0 | 新也! 敬意! 「話: 解が! 【学! 敬語! | 製扱び味起。 環境と書き作業の予機を役割、表現の物色と微まえ、正確さ、分かりやする、適切さ 概しるなどは必要した影響でである。 では、おいて、 があった。 があった。 があった。 があった。 は、 ないでは、 は、 ないでは、 は、 は、 ないでは、 は、 は、 ないでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 | 理 (| 10 | 0 |
| アェアル競争。 利用機 機能を対した。 機能を対した。 が表した。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある | 【股海季項】 類別と一般化、キーワードの設制 【数材 | | 【知道 側別は 【思さ 「読行 〇 【学で 書き: | 進及以取出 ・ では、 ・ では、 | 差 | | |
| 報告は「全年の時間表別 議会が目、「仲重な正確立) むの高級的な品から大分級級の仕方について開発する 見考力、指導力、反応が削 したしたとしていませましましている情報を仮記に開達づけながら、内容や書き手の意図を解軟する 数々の展開を他の強く分析し、機能しようとする | - 【指導事項】 対比、具存と抽象、事実と意見、主張と提携 「【教材】 「「表を上版象、事実と意見、主張と提携 「【教材書、ノート、ワーク」とで端末など 「【一人】立端本の活用】 技楽内容になせて適宜使う | | ○ 【知識文章: 「記述 「記述 」 「記述 「記述 」 「記述 」 「記述 」 「記述 」 「記述 」 「記述 」 | 意とは表記 を受けません。 大力、標本力、原型が割 たこと)において東京含まれている情報を取正規をづけながら、内容や書き手の 歌できる。 人間を表されて、 の関係をおりません。 の関係をおりません。 の関係と称りません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおりません。 の関係とおり、 の関係とより、 の関係とまり、 の関係と の関係を の関係と の関係を の関係を の関係を の関係を の関係を の関係を の関係を の関係を の | ** | 0 | 0 |
| 数が心上 書子母 場場及で開発 の高速制が成あったこ方や機能の仕方について搭断する 見考力、理能力、異なが動 に対している音楽としている情報を似てに関連づけながら、内容や書きずの意図を複軟する ではなからか、人間の 後のではなから、人間の 後のではなから、人間で | - 【指導事項】 具体と独集の関係、消量の知識 - 【教材】 - 【教材】 - 【本材本」と、ワーク、107端末など - 【一人1 台線末の活剤】 使素内容になせて適宜使う | | 【知識 文章:《【思 》 「國を判 (「被終・ | 製とび採乳 の機能的なあなて方や機能が仕方について酵素できる 方れ、無筋力、原気力制 たとお、足がいて変に含まれている情報を相互に関連づけたがら、内容や書き手の などないて変に含まれている情報を相互に関連づけたがら、内容や書き手の など高いた人間となって扱い。 が比別に終まり、人間を制 が比別に注目して文章の構造をつかみ、学習機能に沿って設明しようとしている | ** | 0 | 0 |
| 情報の政策と選択」 連載な打機と通常の中部の中点のた方について情報を認めて使う 機力、理解、原理が開発しません。 解と、とはいいて間から機能になりて、実社会の中から適切な超材を使め、集めた情報の妄習性を容頼性を吟味して、伝えたい での場合とないて間から機能になり、 から機能となり、 から機能と表情的に検討し、容器機能とあって情報を使うとする | ・ 批准事項 総索する動力。 ポートや小磁文指導 ・ [数材] 本、1に指定など ・ [一人」 古地線の所用 検案内容に応じて適宜後う | 4 | 【知 情報》 【書 の妥) 【学 情報》 | 及及状態の の最初性で複雑性の対象の仕方について理解を深かて使っている で最初性で複雑性の対象の仕方について理解を深かて使っている としましておいて目的や理解になって、実社会のかから確切に選択を決め、集めた維 は各で理解とか時して、伝えたいことを明確にできている で見知さと身体がに換すし、学習課題に合って情報を提そうとしている | 1982 | 0 | 0 |
| に対象の情報:から間 機能力で振り、 適合の大力について機能を得める 得力が、理解力、現実力を見かり おとことしておいて異常に発生れている情報を抱また場合である。内容や書き手の意図を解軟する はこよりは発生などを記しまれている情報と相談に関連されたから。内容や書き手の意図を解軟する はこより報告を初とを記し掲載し、異質を生めようとしている | - 【指導事項】 対比、博楽。 動理の展開と分析 - 【教材】 ・ 【教材】 ・ 【表材】 ・ 【一人』台籍本の近月】 授業内容に応じて適宜使う | | 推論: 【思: 「放: ○ 図を対 | 急及が発送し 化死について側着を認めることができる われ、判断力、規模が割 ことはこれいて支援を占れている情報を固定に開達づけながら、内容や書き手の 双に向いう力、人間性制 による概念を放化を高に開鮮し、異質をまとめようとしている | # | 0 | 0 |
| 場合成と学生を他の ・ | - 「指導事項】 資料の分析、認解 - 【教材 - 【教材 - 【教材 - 【本材 ・ 【一人】立編集の活用 技術内容になせて確宜数う | | 引用。 【思》 「書・ | 表に写真。 他は、 化は、 がは、 があり、表現力制 では、 では、 に対しては、 のののでは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののでででででは、 ののででででででででででででででででででででででででででででででででででで | .5 | 0 | 0 |
| 他の機にて、注意質問 ・環境と対応的 のの形式といって、可能を引め、実際に使用しようとする が必要があった。 が、また、は、はいて、自分の考えが明正に合わるよう、世級のがしたや説明の仕方を考えるともに、表現の仕方を工夫する ではておかり、人間が にはならから、人間では にはなっなから、人間では にはなっない。 | ・ 指導事項 機能を大 数を大 数件第、ノート、ワーク、ICT廃末など (一人) は物薬の所用 検案内容に応じて適宜使う | | 【知能 推論: 「書きもし 「ともし 「作品」 | 及び好遊】 かけがこのは「一般を認め、実際に使用できている 力、物質が、現実が動き。 大きのでは、現実がある。 こ、異常のだかとに大できる こ、異常のだかとに大できる このにおいたがたという。 とのによりない。 とのによった。 とのになった。 とのにな。 とのになる。 とのになる。 | .5 | | 0 |
| の書類成のための話し合いを行う」 他の英値代を開始の時からただって用解を使めて使う 得力、指摘り、現代が、で、自分の方とが関端に伝わるとう。自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想し ではないました。 ではないました。 ではないような。 上間ではあって発展である。 がはないからか、影響がはないまから、影響がはないからからで発射しまりとする がはないからかまからないのからは、自分いる異性を増加し、精神的にはし合いの準の方を増加しようとする | - 限商事項 ・ 振音時級、話といば着 ・ [表材] 教科書、ノート、ワーク、以下陽本など ・ [一人」は毎歳の活用] 授業内容に応じて適宜使う | 0 | 【知能の 信服の にごう学生解 「東理解」 | 製工作品 の主状で無限の対応の仕方について機能を扱って使える かり、開始、表現が例 1、セン・関でした」に対いて、自分の考えが側面に知らよう。自分の意場や考えを するともに、指すの収定を予想して無機が場所を考えるなど、指や機能や明確を ではためた。大規模を にはいるとなる場合 にはいるとの場合が、 ととしていまった。 大規模を はなったのでは、 はなったのではなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのでは、 はなったのではなったのではなったのでは、 はなったのではななったのではなったのではなったのではなったのではななではなななではななななではななではなななななななななななな | 明夫を | | |
| にシットの人間と自然」村岡音一 ・磁路など窓外で 原発力、部分の影響が成立て多や機器や仕だいついて発動する 見考力、部分、更受力制 におしたとしたはい、大変の時間を指生えて、内容や構成、施理の展開などについて飲造を蒸に的確に従え、要計や要点を把替す を収工会からか、人間や制 で収工会からか、人間で | - 【指導字目】 引・機之、具体と抽象 - 【教材】 教件書、ノート、ワーク、ICT端末など - 【一人」右端末の信用】 (表明存正のとて選正数) | | | 表しび接出。 現代を記念など、大学機能の仕方について機能できる 内の、実施力の。 力が、実施力の りたように対いて、文章の相談を指えて、内容や構成、 海側の原則などについて叙 が関連に収入、質が高などを図ってる。 で構成を叙述を記述し、 で構成を叙述を記述え、学習顕彰に従って関節をまとめようとしている で構成を叙述を記述え、学習顕彰に従って関節をまとめようとしている | | | |

(思考力、判断力、表現力等) (思考力、判断力、表現力等) (東文 こと)、「接なこと」、「接なこと」、「接なこと」、「接なこと」の各個をはておいて、施理的に考える力や 高葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ 高速をよりまたとなるとしているとともに、接着に最もらことで自己を向上させ、技が協の言語文化の意い手。でになる力が出来が、自分のとい考える近けより表示しました。 利目 高郎入北 (知識及び技能) 生態にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の書語文化に対する理解を深めている。

| | | | 領域 | | _ | T | Т | _ |
|-------|---|--|---------|---|------|-----|---|---------------|
| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | □ □ 書 読 | 評価規準 | | 知思 | 憩 | 配当 時数 |
| | 「古文を授政とかに」 「古文を授政とかに」 「古文を授政とかに」 「古文を授政とかに」 古典の世界に親しむために、古典を設むために必要な文庫のさまりや古典等有の表現について選集を限める 「思わっ、判断っ、現実が同 「認ひこと」において、文章によれているものの見力、感じか、考え力を授え、内容を解析する 「世でいた場からか、異数によれているものの見力、感じか、考え力を授え、内容を解析する 「世でいた場からか、異数によれているものの見力、感じか、考え力を授え、内容を解析する 「世でいた場からか、対象によれているものの見力、感じか、考え力を授え、内容を解析する 「中国の地面による音楽の意味の変化を理解し、学習の見過しをもって調べたり説明したりしようとする | 情報事項] 対約支払、古典料部 「教材] 教作書、一人、フーク、古典単語帳、ICT端末など 【一人、1 台端末の活用 今後の授業に向けて、ICT端末に償れる 日本の授業に向けて、ICT端末に償れる 日本の授業に向ける 日本の授業に使用を可能的が、対象に対象を 日本の授業に関する 日本の授業に向ける | 0 | 【知識及び採集】 古島の世籍に関しために、古典を設むために必要な文語のさまりや古典特有の表現について理解を得められる 【思考力、開力、変更が整】 美術でいるものの見方、感じ力、考え方を授え、内容を解釈できる 「学行に強わらり、別性等】 時間の経過による音楽の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり設別したりしようとしている 時間の経過による音楽の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり設別したりしようとしている | | 0 0 | 0 | 3 |
| | 「現のたく球型」(学術治療物) に加級人が発送して に加級人が発送して に加級人が発送して にあれ、実際に関したために、古典を設けために必要な文庫のきまりや古典特有の表現について選集を認める [選れた] (場所)、実施に受けているものの見力、感じ力、考え力を提え、内容を解釈する 「学びにかかり力、過数性等」 中間の経過による音響の意味の変化を理解し、学習の見述しをもって調べたり説明したりしようとする | - 抗関等項 ・抗関等項 ・加支法・古典単語、品別分解 ・1数付 ・1数付 ・1数付 ・1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、 | 0 | 「知識及り対能」 古典の定義に選出しために、古典を譲むために必要な支援のさまりや古典特有の表現について理解を深められる 【思考力、判断力、実験力略】 「設定した」に対いて、文献に表れているものの見方、感じ力、考え力を使え、対容を無吹さる 【学びに知かう力、人間性等】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | | 0 0 | 0 | 3 |
| | 「商文のを記して 「漢文を使けたからは」 「加東などけが会」 「お命の世界に異しむために、古典を設けために必要な訓練のきまり、古典特布の表現などについて理解を深める 【思考力、開新力、実現方句』 「競力によりにかい、文献に表わているものの見力、感じ力、考え力を授え、内容を解釈する 「対した」とはかい、文献に表わているものの見力、感じ力、考え力を授え、内容を解釈する 「はならか」と思いました。 「はならかと呼唱に見ましたもって、漢文訓練の基礎知識を機能的に身につけようとする | - (旧簿事項] 報念の技法 - (教材] 教権者、ノート、ワーク、ICT端末など 【一人 1 台線梁の活用 校業内容に応じて適宜費う | 0 | 「地震及び対策】 古典の定義に関われたが、古典を譲むために必要な訓練のさまり、古典特有の表現などについて理解できる 「思考力、判断力、実験力略」 「最によっに対いて、文章に表れているものの見方、感じ力、考え力をを走、内容を無数できる 「学びに知らう力、人間性男」 これからの学者に見追しをもって、漢文訓練の基礎知識を積極的に身につけようとする | | 0 0 | 0 | 3 |
| 1 9 | 定期考查(1学期中間考查) | | | | | 0 0 | 0 | 1 |
| 9 8 | 「演文を設けたかに2~5」 「加泉な対理」とかれて、出身を設けためにる姿な訓練のさまり、古典特有の表現などについて理解を深める に思われ、実践が同じ、大変が同じ、大変が表す。 「親かえ」に対い、文章に表れているものの形が、感じが、考えがを授え、内容を解釈する これからの学習に見感したもって、漢文訓練の基礎知識を推動的に身につけようとする | - 情報事項] 到認の技法 - 1数村] 素件表、ノート、ワーク、ICT端末など [一人 1台端来の活用 授業内容に応じて適宜扱う | 0 | 【知識及び控制】からたこ、内裏を設むために必要な訓練のきまり、古典特別の変現などについて理解できる 古典の推断に載した。 とは、実践が関する 「課化」と、はおいて、文献に動しているものの見力、能じ力、考え方を終え、内容を解釈できる 「現化」と、はおいて、文献に動しているものの見力、能じ力、考え方を終え、内容を解釈できる 「学びになから力」。 これからの学習に見慮しをもって、漢文訓練の基礎知識を積極的に向につけよりとする | | 0 0 | 0 | 3 |
| | 「使国」(原国) 「福田地工」(毎国) 「福田地工」(毎国) 「福田地工」(毎日) 「福田地工」(毎日) 「福田地工」(毎日) 「福田地工」(東海) 「福田・大阪田市工」、大阪の福田・徳まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的論に捉える 成本の工品に対し、大阪の福田・徳まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的論に捉える 成本収益的由来となった話を機能的に扱み、わかった内容を工夫してまとめようとする | - 住師事項 ・ 比事事本 本文統 ・ 投稿 - 本文統 ・ 投稿 - ト、ワーク、ICT端末など 【一人1台線米の活用 検 表内容に応じて適宜扱う | 0 | 「知識及上対地」 古典の定義に選出しために、古典と譲わために必要な訓練のさまり、古典特有の表現などについて理解を認められ 「選考力、機断力、変更が鳴 「設定した」に対いて、文部の機能を結ええて、内容や機成、展開などについて認定を基定的線に捉えられる 【学びに知らう力、人間性等】 低率後期の由来となった話を機能的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとする | 5 | 0 0 | 0 | 7 |
| | 下な上たけのかくや板上 (竹窓時間) 「加藤及火付後] 北海及火付後] 北海及火付後 北京田の南海大佐に特徴的な海句の最を増し、それらの文化的背景について理解を深め、胡感を着き消棄を豊かにする 【急力・開か、東側が3。東側が3 北海の大海大の大海に 大海になった。人は他名 用度の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている | 日報事項 文庫交流・ 吉卑単語。 本文総解 ・1数材 ・2数材 ・2数材 ・1数材 ・1、ワーク、古典単語帳、ICT順本など 「一人」台灣米の活用 ・採剤内容に応じて適宜額分 | 0 | 【地域及び技能】 核が間の資産文化に特徴的な協句の量を増し、それらの文化的背景について理解を探め、協感を着き高嚢を豊かに (思考力、特別が、実現力等】 (思考力、生活が、大変力等) (思考した)において、文章の種類を替まえて、内容や構成、展開などについて報達を基に的確に捉えられる (単位にかかうか、人間性等) 用度の活用について理解し、学習の見通しをもって活用部を調べようとしている | :re | 0 0 | 0 | 5 |
| | 定期考查(1学期末考查) | | | | | 0 0 | 0 | 1 |
| | 「協議」 「協議及び共通・発展・創造を支える働きがあることを理解する 企業によっている。現代が当 「設定した」に対して、文章に表れているものの形力・感じが、考え方を授え、内容を解釈する 「学びに向いう力」、規模型 「確認」は発生のがこれたに採出した影響について理解し、孔子の理想とするところを貼り強く説明しようとする 「議論」は発生のがたに採出した影響について理解し、孔子の理想とするところを貼り強く説明しようとする | - 情報事項] ・情報事項] ・間の投法。 儒教思想 ・1数付] ・数付表、ノート、ワーク、ICT端末など 【一人1台端をの居用] 授業内容に応じて適宜扱う | 0 | 「知識及び対象】 野歌には、文化の課金、発展、前部を欠える働きがあることを理解できる [200内、側がた、接続力能と表れているものの見力、感じ力、考え力を授え、内容を解釈できる 「学びに加いうか」、別性等 「海線」が我が担め文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを貼り強く説明しようとしてい | ٥. | 0 0 | 0 | 4 |
| | 『古式を読むために3』 『古式を設むために4』 『古式を設むために4』 「古式を設むために4』 「古式を設むために4」 「古気の世界に望しませんに、古典を設けために必要な文語のきまりや古典特有の表現について機能を得める 【思考れ、開新力、実現が書 「提けた」とはかて、文献に扱っているものの処力、感じが、考えがを授え、内容を解釈する 『学びに知らり方、 別性等』 「様式にはあらう方、 別性等』 「現場の後継名」と自由で連載の実施の変化を理解し、学習の見過しをもって調べたり説明したりしようとする 「場面の後継名」と自由で連載の変化を変化を理解し、学習の見過しをもって調べたり説明したりしようとする | - 【指導事項】 文前文法・古典単語 を指数・ノート、ワーク、古典単語帳、ICT端末など 【一人1 台端をの居用】 授業内容に応じて適宜扱う | 0 | 【知識及び技能】 古命の世界に載しむために、当典を設むために必要な文語のさまりや古典特有の表現について理解を深められる 「自然した」を表しました。 「自然した」 「自然した」 「自然した」 「事でに知ららか、人間性等」 時間の経過による音楽の意味の変化を理解し、学習の見過しをもって調べたり設別したりしようとしている 時間の経過による音楽の意味の変化を理解し、学習の見過しをして調べたり設別したりしようとしている | | 0 0 | 0 | 4 |
| 2 9 % | 下芥川 (伊勢物語) 【加森文比特別 古典の世紀に張したたい、代品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を深める 【思考力、解析力、現実の記 【で表現)、解析力、現実の記 「学行に添わう力、民情報】 「学行に添わう力、民情報】 素物語に景極的に親しみ、学習機能に沿って和家の果たす意味を捉えようとする | 信仰事項 文面を法、古典単語、本文説解 ・1数材 ・ト、ワーク、古典単語帳、ICT端末など ま件書、「台灣北の5所目 民業内容に応じて適宜後う ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 0 | 【地環及び技術】 古典の世界に親しわために、作品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を認められる 【思考力、機動力、実現力等】 「誰た」と、ころいて、作品に表れているものの見方、感じ力、考え力を授え、内容を解釈できる 素物語に関係的に親しみ、学習機能に治って和歌の集た十重殊を授えようとしている。 | | 0 0 | 0 | 4 |
| | 定期考查 (2学期中間考查) | | | | | 0 0 | 0 | 1 |
| | 「唐字の原列」 は臨及と対略。 は臨及と対略。 は臨及と対略。 は悪力、「物形、及便が割 に悪力、「物形、及便が割 (設定と上)に対か、作品に及れているものの扱方、感じが、考えがを使え、内容を解釈する (等など、のからか)、 。 に関する。 に対しているとか。 に対しているとが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 に | - 指揮事項 環形のルール、内容理解 - 複料 ・複料 - 大一ト、ワーク、ICT端末など 【一人 1 台端米の活用】 授業内容に応じて適宜接う | 0 | 【知識及び打破】 表述間の消謝之近の仲間や我が個の文化と外間の文化との関係について理解できる では、「では、「では、「では、「では、「では、「では、「では、「では、「では、「 | | 0 0 | 0 | 4 |
| | 『古ある人、弓材ることを習みに』『丹波に出張といふところあり』(後然意) 【知識及び財産】 実なの意味は、実施の中で形成されることを理解する 【思考力、解析が、決度力量と実施する。 【思考力、解析が、決度力量と表れているものの見力、感じが、考え力を提え、内容を解釈する 【学化に添わう力、風情場】 本文中に変れた作者の使用・数測・感動などを機能的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしようとする | ・ [指導事項] 文治文法・古典単語、本文統解 ・ 1数材] 数本書、1分類ポット、ワーク、古典単語帳、ICT順末など 日本の公司 ・ 1分類ポッパ所用 ・ 投業内容に応じて適宜後う | 0 | 【知識及び技術】 文章の意味は、実施の中で新成されることを理解できる 【思考力、機力力、実現力等】 「認むこと」において、「作品に変れているものの見方、感じ力、考え力を捉え、内容を解釈できる 本文中に変れた作者の提明・複劇・複劇・感動などを機関的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている | | 0 0 | 0 | 8 |
| | 定期考查 (2学期末考查) | | | | | 0 0 | 0 | 1 |
| | 「美庭職以(十八成略) 「全型」(十八成略) 「主型」(十八成職) 「知識及び付金] 「加速なび付金] 「加速なび付金] 「加速なび付金] 「加速などのでは、大変が増 「現在したが、大変が増 「設立」、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、大変が増 「現在したが、 「是、 「是、 「是、 「是、 「是、 「是、 「是、 「是、 「是、 「是 | - 信用等項] 文法等項、未文談等 ・【歌材】 数件表、プート、ワーク、ICT端末など 【一人」台端末の所用 検案内容に応じて適宜扱う | 0 | 【知識及び接別 古島の世籍に置いために、自角を設けために必要な訓練のさまり、古典特有の表現などについて理解を認められ に思力。 地域力が、映画の機能を描まえて、内容や構成、展開などについて設定を基に鉤端に捉えられる 「学行に加からか、人なの機能を描まえて、内容や構成、展開などについて設定を基に鉤端に捉えられる 「学行に加からか、人間性句】 機能のに受応の物像を理解し、たとえ話における論理を設明しようとしている | · 5. | 0 0 | 0 | 8 |
| 3 等 美 | 【学びに向かう力、人間性等】 文体の歴史的背景を踏まえて本文を読み、学習の見通しをもって表現や標字・文体の特色を評価しようとする | - 指導事項 ・ 指導事項 ・ 複数 古典 語、本文説解 ・ 複数 リート、ワーク - 古典単語帳、ICT端末など 1 一人 1 参照 - 1 表現 - 1 表 | 0 | 【加度及び状態】 和度能及など便免的な文体の変化について理解を使められる 【意力、一種が力、実現力等】 構造を力、機力が3 【章なに向かう力、人間性等】 文体の歴史的背景を結まえて本文を認み、学習の見過しをもって表現や権等・文体の時色を評価しようとしている | | | 0 | 6 |
| | 〒一のカムハンJ 中原中色 出版を大坪場) 北地線と大坪場 北地線と大坪場 北地線の海流文化に等価的と表現の技能とその造業について理解する (最大)、単版、東東の市局 「最大」とはおいて、文章の場合や展開、美現の仕方、表現の特色について評価する 【学びにからう)、「機関金】 繰り返し下液化、大量の 繰り返し下液化、機能的に終わり、大ムを整解しようとする | - 【阿藤宇用】 - 北西藤宇門 - 北京 音歌など - 2841 - 1841 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - | 0 | 加速及び対象] 総定制の資富が近に特徴的た契規の技法とその効果について理解できている [歴史九、飛動方、東側内場] 環定とよ」に対いて、実際が構造や時間、実現の仕が、表現の特色について評価できている [学びに知らうか。人間性等] 構造して記述した。 最初をして設定し、機能がに終めりメスを理解しようとしている | | 0 0 | 0 | 3 |
| | 定期考查(学年生考查) | | | | | 0 0 | 0 | 1 合計 70 |

年間授業計画

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科

地理歴史 科目 地理総合 単位数 2 単位

 教 科: 地理歴史
 科 目: 地理総合

 対象学年組:第 1 学年 1 組~
 3 組

 教科担当者: (1組:矢口)
 (2組:矢口)

 使用教科書: (第一学習社 高等学校地理総合 世界を学び、地域をつくる
 (組:)(組:)

教科 地理歴史 の目標:

【 知 識 及 び 技 能 】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等、地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効

【学びに向かう力,人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について,よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに,多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自 【学びに向かう力,人間性等】党,我が国の国土や歴史に対する受情,他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理総合

の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力,判断力,表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|--|
| 域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適 | 地理に関わる事業の意味や意義。特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自 影理地との相互な存間係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面の・多角 的に寿緊したり、地理的な課題の解談に向けて構想したりする力や、効果的に説明し たり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|------|---|--|--|---|---|---|----------|
| | A単元「球面上の世界と地図」 線車・経度の役割、地軸の類きによる季節変化と時差の存 在、地図上の情報を裁み解く有用性、GNSSやGISなどにつ いて理解させる。 | - 指導事項 ・地球上の位置 ・世界の時差 ・世界処別の見方・使い方 ・地図から読み取る情報 ・デンタル化された地図 ・地理情報システムの活用 ・教材 ・ 資料集, ICT端末 ・一人1 台端末の活用 | 知識・技能 時差の計算。地図の図法の特徴と欠点。GNSSやGISのしくみと実社会での活用例を理解している。 [翌考・明修・表現] 非面を平面に表現する癖の特徴と問題点や、ハザードマップを作成でどのような情報が必要かを考察 することができる。 1主体的に学習に取り起り襲び。 さまざまなWeb地図にアクセスし、地理情報システムなどに関心をもつことができている。 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| 1 | | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学 期 | B甲元「国家の結びつきとクローバル化する社会」 | - 指導事項 - 国家の領域と目境 - 日本の領域とさまざまな領土問題 - 交通機関の発達と施力で世界 - 拡大する世界の貿易と物流 - グローバル化と 人の移動に入る結びつき - 教材 - 黄科集, ICT端末 - 人1 台端末の活用 等 | 【知識・技能】 交通・情報・通信のそれぞれの役割や長所・販所や、世界貿易の形態や課題を、知識として身につけてい 文理・情報・通信のそれぞれの役割や長所・販所や、世界貿易の形態や課題を、知識として身につけてい 2世界・明郎・去規】 国際期の人の移動や国際貿易。国家側の結合などが活発化・複雑化していることや、日本が抱える領 土間題の解析に向けて、政界を個人として必要なことを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界で起こっている貿易・領土問題について調べ、現状と課題をまとめることができる。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | ○単元「特核可能な社会を目指して」 5つのPの枠組みを活用し、「特核可能な開発目標 (SDCa)」の理念や具体的な内容への関係を深めさせ、 「特核可能なた会」の表現へ向けて、私たち一人ひとりが できることを考察させる。 | ・指導事項 ・持続で施な開発目標 (SDGs) ・地球的課題の地理的た側面 ・数材 ・数科書。 資料集,ICT端末 ・一人 1 台端末の活用 等 | 知識・技能 SDGa017の目標について理解し、持続可能な社会を築いていく担い手として、地理総合を学習する意 数に気づく。 選売・本規 一般のでは、一般ので | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | D単元「すべての人々の卑戮と平等が守られた社会に向けて」 見た。底面している地球的課題に着目し、具体的な事例を通して、すべての人々の撃撃と平等が守られた社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力などについて理解させる。 | - 指導事項 ・貧困問題 ・人口問題 ・ 人口問題 ・ 食料問題な水の利用 ・ 機計 一 ジェング 一 問題 ・ 教科 ラ ジェング 一 問題 ・ 教科 書 ・ 資料集 、 ICT端末 ・ 一人 1 台端末の活用 等 | 【知識・技能】 質料をもとに、人々の尊載と平等に関わる諸議題の実情とその背景について理解を深めることができ 2 世界・戦略・表現】 各議師の解決の分向性について考察し、他者に説明したり、構想したりすることができる。 主体的に予算に取り組む機宜! 地球的高趣に関して、課題を追究したり解決したりする活動を通し、課題解決へ向けた特核可能な社 会の実践を目指した各国の別の組みや国際協力などについて考察したり構想したりして、他者に説明した たり議論したりする主体的な態度が見られる。 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 2 | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学期 | E 単元「自然と調和した豊かな社会に向けて」 | - 指導事項 ・限申める資源 ・エネルギー問題 ・都市・居住問題 ・数材 ・数料書 ・資料集, ICT端末 ・一人1 台端末の活用 等 | 【知識・技能】 資料をもとに、質潔を造る問題の実情とその背景、エネルギー原の変遷や各発電方法の特徴、都市・ 特性問題の実情とその背景について質解を探めることができる。 「動理型社会の実現、再生事質エネルギーの店用やエネルギー効率向上、持続可能が都市(サステナブ ルシティ)の実現、产生事質エネルギーの店用やエネルギー効率向上、持続可能が都市(サステナブ ルシティ)の実現と方が正求められていることについて考察し、他者に説明したり、構想したりするこ 「土体的に学習に取り組む機宜】 地球的運搬に関して、課題を追究したり解決したりする活動を通し、課題解決へ向けた特核可能な比 なの実現を目指した当因の定り組みへ国際協力などについて考察したり構想したりして、他者に説明した り議論したりする主体的な態度が見られる。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | P 単元「平和で公正な社会に向けて」 現在、直面している地球的課題に着目し、具体的な事例を 直して、平和で公正な社会の実現を目指した各国の取り組 みや国際協力などについて理解させる。 | 指導事項 世界のさまざまな紛争 さまざまな対立の解状に向けて ・言まざまな対立の解状に向けて ・国際協力とバートナーシップ 教材 教科書, 近7端末 ・一人1 台端末の活用 等 | 「助職・技能」 資料をもとに、世界で起きている様々な紛争とその消景。国内紛争や国際紛争解決のために行われている取り組み、国際機関や領家、NGO*NPOなどが行っている国際協力などについて選解を深めること ができる。 (18 年 末年) 世界で後でしいる紛争と私たちの生活との関わり、平和な世界の実現のために求められていることを 考察することができる。 王体的に子書江取り組む機宜! 地球的運搬に関して、課題を追究したり解決したりする活動を通し、課題解決へ向けた特核可能な社 なの実現を目れたを帰因がよりながなどについて考察したり構造したりして、他者に説明した に別議論したりする主体的な態度が見られる。 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 3 学期 | Re C 12 상 : | - 指導事項 ・地球機能で見る地形の姿と 自然及著 ・人々の暮らしを取りまく自然環境 ・変動部の自然と防災 ・場間地域の自然と防災 ・場にちができる反番・の備え 教科書、資料集、ICT端末 ・一人1 台端末の活用 等 | [4] ・ 注記 ・ 注記 ・ 注記 ・ 注意 ・ | 0 | 0 | 0 | 17 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| ш | <u> </u> | I. | 1 | | | | 승計 |

70

(組:)

| 年間授業計画 新様式例 | | | | | |
|-------------------|----------|------|-------|----|-----|
| 高等学校 令和6年 | F度(1学年用) | 教科 | 地理歷史科 | 科目 | 歷史総 |
| 教 科: 地理歴史科 科 目 | : | 歷史総合 | 単位数: | 単位 | |
| 対象学年組:第 1 学年 2 組~ | | 3 組 | | | |

(組:) (組:)(組:)

教科 地理歷史科 の目標:

【 知 譲 及 び 技 能 | 近週代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に関べまとめる・ ・ 技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等、近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、特殊や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等、する受情、他国や恒男の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して高衰される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対して、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して高衰される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対して、対して、

科目 歴史総合 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|----------|----------------|--|
| | | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解 決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民 |
| | | としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自 |

| | | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|---|-------|---|--|--|---|---|---|----------|
| | | 18世赴のアジア諸国の秘密が欧米諸国に45 太正影響などに着まして、 18世後のアブア諸国に317 6秘念術館の吟徳、アジア発地域同同 係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを参画的・多角的に考覧し 表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 | 「結び付く世界と日本の開国」 1 18世紀の東アジア 2 結 び付くアジア諸地域 3 18世紀のヨーロッパとアジア | 「知」は世紀のアンテや日本における生産と従過。アンテ条単規関やアンア諸国と欧米諸国の募放とを 底に、諸資料の態度に関するときままな情報を参加かの機能に調果まとめ、18世紀のアジアの経済と 社会全機能している。 「翌」 18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国 とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたカリオるなどして、18世紀のアジア諸国 におけるというに対している。 は一般に対している。 18世紀のアジア諸国の対象が、アンテを地域の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面が多多的的に対す が表現し、アンテを地域の関係、アジア諸地域と欧米諸国と欧米諸国との関係などを多面が多角的に対象 第2世紀の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組むうとし、中学校までの学 習も振り返りながら課題を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | 産業基金の影響、中国の開港と目本の開国の背景とその影響など は着した。アンデ諸国と欧邦協の実際などを新聞 的・多角的に考報し、表現することを通して、工業化と世界市場 の形成を理解する。 | 「結び付く世界と日本の開国」 4 産業革命のはじまり 5 世界市場の形成 東アジア国際関係の変化と日本の 開国 世界経済の変化と日本の産業革命 | [知] 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開産と日本の間区などを基に、諸資料から歴史に関するままさまた情報を通知かつ効果が黒不まとめ、工業化と使用事の形成を理解している。 (思) 産業革命の影響、中国の開港と日本の間図の背景とその影響などに着目して、主題を改定し、アン溶菌にその図で地域の動き地域にからませました。 「思」の関係の選手などを多齢前が、参角的に"考核し、表現している。 連盟」の関係の選手などを多齢前が、参角的に"考核し、表現している。 は、表現している。」というなどとして、アンア諸国と欧米といる。 は、表現している。 は、またいる。 またいる。 またいる。 またい。 またいる。 またいる。 またい。 またい。 またいる。 またいる。 またい。 またいる。 またい。 またい。 またい。 またい。 またい。 またい。 またい。 またい | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | - 111 | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 1 | * | 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、 国民国家の特徴や社会の変容などを多面的、多角的に考案し、表 現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 | 「国民国家と明治維新」 1 市民革命と近代社会 2 自由主義とヤンコナリズム 3 アジアの福田家とその変容 4 明治維新と東アジアの国際関係 | 【知】18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定など を基本、諸資材わら歴史に関するさまさまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立無体制と国民国家の 形成と登開、いるの説の事業や参照をとじ第日して、主題を登定し、アンア諸国とその他の国や境域の制 向とは扱したり、相互に関連付けたりするなどして、民治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容など を多面的、多角的に考集し、表現している。 「土」近代化の歴史に関わる諸事業について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りな がら課題を追売しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | ŀ | 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた 影響などに着日して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容 などを多面的・多角的に考覧、実現することを通して、列強の帝 国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 | 「国民国家と明治維新」 5 立憲制の広まり 6 帝国主義と傾圮地 7 日清戦争と襲坂秩序の解体 8 帝国主義祖の魏合と国際関係 様民地支配と植民地の近代 | 【知】列強の連出と植民地の形成、日清・日郵戦争などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報 を適切かつ効素的に調べまとめ、列集の毎日主義定績とアンデ語国の皮管を事態している。 【思・荷田主教授の事法、帝田主教授者とアンデ語国の皮管を事態をと化着目して、主題を設定 表現るが、「日本の事業を表現している。」、日本による場合と化着目して、主題を設定 第の特徴、列強間の関係の安容などを多面的・多角的に考覧し、表現している。 「は上近代化の歴史に関わる語彙等について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りな がら鏡間を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | ľ | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | | 第一次世界大戦の指移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影 憲。日本の参戦の背景と登場とと、注目して、第七次第千歳の任務 またまた。 または、東京 などを多面か、多角的に支熱し、実現することを通して、総力戦と第 一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 | 「第一次世界大戦と大衆社会」 1 大衆社会の時代 2 第一次世界大戦の原開 3 国際協調等の形成 3 国際協調を収入 2 グイエト連邦の成立と社会主義 | (知) 第一次世界大戦の展開、日本やアンアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の市 別、ナショナリスへの範囲は国際部立即成立たとを会は、「諸春計から歴史に関するこまざまな情報を通切 日本地的に要すると、他の一般では、一般で表する。 1. 20 第一次世界大戦が大戦を対しては、日本とその他の国際・地域の関係となる整備 1 本の主要を取るが大戦の中原によった影響 1 本の主要を対しませなどに、第一次世界大戦が大戦を対して、上間を設定し、日本とその他の国や地域の動画を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦が住を特備、日本とアンガまび大平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などして、第一次世界大戦が住を構造した。 ととして、第一次の変化や大衆の他を実に関わる基準条について、見通しを持って学習に取り組らうとし、学習を展り返りながら課題を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | - 11 | 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一枚世界大戦機会が社会の変きと社会運動との関連などを参加的、多角的に予察し、 表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広が りを理解する。 | 「第一次世界大戦と大衆社会」 5 アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6 アジアの経済成長と移動する 人々 7 反傾民地主義の高揚 国際秩序 の変容 民主主義の拡大と社会変革の動き | (知) 天衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと改党政治、大震商費社会と大衆文化、教育の資金とマスティアの発達がときに、諸資料から歴史に関するさぎままだ情報を通知かつ級務的に関いませた。大衆社会の形成と社会運動の広がりを開発している。 (記) 第一次世界大戦前後の社会で変かなどなど着して、当間を設定し、日本とその他の国や地域の動向と比較したり、信息に関係付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などはあり、他五に関係付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などは関いる事業を終めた。 (1 当) 国際秩序の変化や大衆やの歴史に関わる事業を集について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 1 | 学制 | 経済危機の背景と影響。国際秩序や政治体制の変化などに着目して、全国の世界必使への対応の特徴。国際協調体制の動態の要因 などを多面的、多角的に考覧し、表現することを通して、国際協 調体剤の動揺を理解する。 | 「経済危機と第二次世界大戦」 1 世界恐慌 2 アジア・アフリカと大衆社会 3 国際協調体制の崩壊 4 日中戦争と深刻化する世界の 危機 | 【知】世界恐慌、ファンズムの伸展、日本の対外政策などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を選切かつ効果的に漏すまさめ、国際部制等制の勘議を無限している。 「思考が意かずまと物書、国際秩序や政治体等の変化などに着して、主要を設定し、日本とその他 国際協議所制の動揺の要項とどを多額的・多句的に考定し、表現している。 注目 国際秩序で変化や大衆化の歴史に関わる諸事等について、見通しを持って学習に取り組らうとし、 学習を展り返りながら課題を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響。第二次世界大戦後の国際秩行の形成が注途に及ぼした影響が多い。 第一次世界大戦後の国際秩行の形成が注途に及ぼした影響がよどは、 現代人なの生活。日本に対する古板政策と国際情勢をの関係がとき、 面的・多角的に考路し、表現することを通して、第二次世界大戦後の 国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 | 「経済危機と第二次世界大戦」 5 第二次世界大戦の対発 6 第二次世界大戦における連合 2 正次世界大戦における連合 7 アジア太平洋戦争と日本の敗 8 連合国の占領政策と冷戦 | 【却】第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア語目の動向。戦後改革と 日本知識法の制定、平均体制と日本の独立の回復などを基に、請責者から思愛とに関するさまままた情報を 日本の観光の研究、平均体制と日本の独立の回復などを基に、請責者から必要とは得るをまままた情報を 「思」第二次世界大戦の作格を、第二、世界大戦が大戦後の中原は、日本とその他の国や地域の動物を比較 ため、相互に関連付けたりするなどして、第二人権が、対し、日本とその他の国や地域の動物を比較 ため、相互に関連付けたりするなどして、第二人権を設定し、日本とその他の国や地域の動物を比較 ため、相互に関連付けたりするなどして、第二人権関大策の体格を分解・第二次世界大戦でわた会状や で人々の生活。日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・参与的に考察し、表現している。 【主】国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる議事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、 学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 1 | 3 学期 | 地域的中の背景や影響。 奇襲が高程の政府に及ぼした影響表とだら 時間: て、地域的今と冷峻の関係。 第三世界下級 19 で、 自他、 で、 を が、 で、 が、 で、 が、 で、 が、 で、 が、 で、 が、 で、 で、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 で、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の | 「冷戦と世界経済」 1 冷戦の拡大と第三勢力 2 キューバ機(表現と関係 3 脱植民地化の遠原と地域紛争 4 計画経済と開発 | (知) 極級民族化とアンア・アフリカ諸国、希較下の地域合為、先進国の政治の動向、環盤経典や結果物質者化とをは、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果の動画、環盤経典や結果的管理化といる。 民間、地域から背景や影響、外域が各国の政治に反ぼした影響などは書して、当般を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域給今と冷峻の関係、第三世界の国との情報が政の対象が、成本やフヴィエ・造型の政策を観り限などを多面が、多月的に考察に関するが必要が表して、地域治今と冷峻の関係、第二世界の国との情報が表している。 成功が必要がある話事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| | ŀ | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| L | | | | | | | | 合計 |

数学 科目 数学 I ^{単位数: 3} ^{単位}

【学びに向かう力、人間性等, 数学的な考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

科目 数学 I の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|--|----------------|
| 数と式、2次開数、データの分析及び図形と計量における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | ことなどを通して、数と式、2次関数、データの分析及び図形と計量における数学的 | |

| Г | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|-------|--|--|--|---|---|---|------|
| | 【第1章 数と式】 【知識及び技能】 「知識及び技能】 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や権 職と考力と判断力、無理力等】 を受容のな思から考え方を存け付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 学習のな思から考え方を保し付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 学習の容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 改訂版 新編 数学 I (数研出版) [第1章 数と式] 第1節 或の計算 第2節 実數 第3節 1次不等式 | 【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識が身に付いて ・事象を軟合的に表現・処理する仕方や機論の方法などの技能 ・現に付けている。 「里考・報節・表現」 教学的な思力や考え方を身に付いている。 「主体的に学習に助 組む極思」 ・学習内容の考え方に関心をもっとともに、数学のよさを認識 し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| 1 | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学期 | 【第2章 集合と命題】 【第3章 関数とグラフ】 「知識及び氏統」、原理・法則などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や権 編の方法などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 安学的な見か考え方を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 学習内容の考え方が「陽心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 改訂版 新編 数学1 (数研出版) 【第2章 集合と命國] 毎題と法中 命題とその逆・対偶・裏 命題と延明 | 【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識が身に付いて いる。数学的に表現・処理する仕かや推論の方法などの技能 を身に付ている。 【思考・判断・表現】 数学的な見方や考え方を身に付いている。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | | 改訂版 新編 数学 I (数研出版) 【第3章 関数とグラフ】 第1節 2次関数のグラフ | 【主体的に学習に取り報か態度】 学習内容の考え方に関ふをもっとともに、数学のよさを認識 し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | 第3章 開散とダラブ 【知識及び搭載] 法則などを開解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や推 基本的な概念、原理 : 法則などを開解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や推 織の方法となり就能をなに付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 数学的な鬼乃や考え方を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 25才版 新編 数学1 (数研出版) | 知識、技能】 基本的水販売、原理・注則などを理解し、知識が身に付いて 本本的水販売、原理・注則などを理解し、知識が身に付いている。 事象を数字的に表現、処理する仕方や機論の方法などの技能 足害・判断・表現】 数学的な度方や考え方を身に付いている。 【主体的に学習に取り組む能度】 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識 し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| , | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 2 学期 | 【第4章 図形と計量】 【知識及び技能】 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や推 論の方法などの技能を身に付けている。 【思考力、判断方、実現力等】 以下のような、大型がより付けている。 学びに向かう力、人間性等】 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 改訂版 新編 数学1 【第4章 図形と計量】 第1節 二角比 第2節 三角形への応用 | 【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識が身に付いて 事象を参約に表現。処理する仕方や推論の方法などの技能 を身に付いいる。 【思考・細断・表現】 数学的な見方や考え方を身に付いている。 【主体的に学習に取り組む施度】 学習内容の考え方に関心をもっとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | 第4章 図形と計量 第5章 データの分析 知識及び技能 振鳴な声で、一般では、原理・注明などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・処理する仕方や権 論の方法などの技能を身に付けている。 (思考力、判別が力、表現力等) 数学的なな方や考え方を身に付けている。 (学びに向かうカル、人間世界) | 受打版 新編 数学1 (数研出版) 【第4章 限制を計畫】 第2節 三角形への応用 | 知識、技能 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識が身に付いて いる。 事象を数学的に表現、処理する仕方や機論の方法などの技能 を身に付けている。 【思考・判断・表現】 数学的な見方や考え方を身に付いている。 【主称的に学習に別り報い施定】 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 当 学 期 | 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 送訂版 新編 数学 I (数研出版) 【第5 章 データの分析】 『第5 章 データの分析】 データの整理 データの(表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) | 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識 し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 105 |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科

数学 科目 数学A 高寺子校 节和り午度 (1 子子用) 教科 教 科: 数学 対象学年組:第 1 学年 2 組~ 教料担当者: (4クラス:柴田) (8クラス:西川) 使用教科書: (新課程 新編 数学A (数研出版) 使用教科: (新課程 新編 数学A (数研出版) 使用教材: (新課程 教科書傍用 サクシード 数学I+A (数研出版) 教科 数学 3 組

の目標:

【知 識 及 び 技 能]基本的な概念、原理・法則などを理解し、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けさせる。

[思考力、判断力、表現力等]事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返るなど、数学的な見方や考え方を身に付けさせる。

【学びに向かう力、人間性等】数学的な考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

科目 数学A の目標:

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目·内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|------|--|--|--|---|---|---|----------|
| | 【第1章 場合の数と離率】 【知識及び比較。原理・注明などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・ 処理する仕か存储論の方法などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 数学的な見か予考え方を身に付けている。 【学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活 用しようとする。 | 新編 数学A (数研出版) 【第1章 総合の数と確率】 準備 集合 第1節 場合の数 | 【知識・技能】 基本的な概念。 原理・法則などを理解し、知識が身に付いている。 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【翌寿・判断・表現】 数学的な見方や考え方を身に付いている。 【主体的に学習に取り組む極度。 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に 活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 1 | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学期 | 【第1章 場合の数と 藤率】 【知識及びは終之 原理・注明などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・ 起来的な概念、原理・注明などを理解し、知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 数学的な見か予考え方を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 学びに向から力、人間性等】 学びに向から力、人間性等】 日本のようとなる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のとなる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のよる。 日本のなる。 日を、 日本のなる。 日本のなる。 日本のなる 日をなる。 日本の | 新編 数学A (数研出版) 「第1章 場合の数と確率】 第1節 場合の数と確率】 第2節 確率 | 極端・技能 基本的な概念。原理・法則などを理解し、知識が身に付いている。 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 観学的な見方や考え方を身に付いている。 【主体的に学習に取り組む極度】 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に 活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | 第1章 場合の数と確率] 【知識及びは終し、原理・注明などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・ 収理する仕かを概念・原理・注明などの技能を身に付けている。 【思考九、判断力、表現力等】 数学的な見かや考え方を解じ付けている。 【学的内容の考え方を解じ付けている。 【学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 新編 数学A (集研出版) [第1章 場合の数と確率] 第2節 確率 | 知識・技能 基本的な概念。 原理・法則などを理解し、知識が身に付いている。 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 [里秀・判断・夫祖] 思秀・判断・夫祖] 芸学的な見方や考え方を身に付いている。 [主体的に学習に取り組む地理) 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に 活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| 2 | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学期 | 【第2章 図形の性質】 【知識及び注能】 基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・ 処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現の等) 数学的なよみや考え方を考に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 学習内者の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活 用しようとする。 | 新編 数学A (数研出版) 【第2章 図形の性質】 第1節 平面図形 第2節 空間図形 | 【知識・技能】 基本的な概念、原理・注則などを理解し、知識が身に付いている。 事象を数字的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 数字的な見方か考え方を身に付いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 3 学期 | 「第3章 数学と人間の活動」 「知識及び比較記] 基本的な概念、原理・起則などを理解し、知識を身に付けており、事象を数学的に表現・ 処理する仕分を推論の方法などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 数学的な見かや考え方を身に付けている。 【学習内容の参え方と関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活 用しようとする。 | 新編 数学A (数研出版) 【第3章 数学と人間の活動】 | 知識・技能 基本的な概念。 原理・法則などを理解し、知識が身に付いている。 事象を数学的:表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 担秀・判断・表現 型秀・初から見方や考え方を身に付いている。 主体的に学習に取り組む極度。 学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に 活用しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 70 |

年間授業計画

高等学校 令和6年度(1学年用)教科

理科 科目 科学と人間生活 ^{単位数: 2} ^{単位}

 関係
 関係
 日本学人
 <

(3組:名古屋)

教科 理科 の目標:

【 知 鎌 及 び 技 能 】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 科学と人間生活 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|--|--|
| 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりに ての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験など する技能を身に付けるようにする。 | DLN 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 う。 | 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------|--|-----------------------|--|---|---|---|----------|
| | 光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波 の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解す ること。 | 光や熱の科学 光の性質とその利用 | 光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて主体的に探究していること。探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 熟に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギー の変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付け て理解すること。 | 光や熱の科学 熱の性質とその利用 | 熟に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効 利用について、日常生活と関連付けて主体的に探究していること。探究の結果理 解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 1 | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学期 | 身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラス チックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日 常生活と関連付けて理解すること。 | 物質の科学 材料とその再利用 | 身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及 び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて主体的に探究しているこ と。探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 本料と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材 料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常 生活と関連付けて理解すること。 | 物質の科学 衣料と食品 | 衣料と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材料の性質や用途、食品 中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて主体的に探究しているこ と。探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | ヒトの生命現象に関する観察,実験などを行い,ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解すること。 | 生命の科学ヒトの生命現象 | ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて主体的に探究していること。探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 微生物に関する観察,実験などを行い,微生物の働きを人間生活と関連付けて理解すること。 | 生命の科学 微生物とその利用 | 微生物に関する観察,実験などを行い,微生物の働きを人間生活と関連付けて主体的に探究していること。探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 2 | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 学期 | 5 1- 7 THE STREET A LIBERT WHAT I A 1 VO 14 - 1 - 2 | 宇宙や地球の科学 太陽と地球 | 天体に関する観察、実験などを行い、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて主体的に探究していること。 探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 自然景観と自然災害に関する観察,実験などを行い,身近 な自然景観の成り立ちと自然災害について,人間生活と関 連付けて理解すること。 | 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 | 自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ち と自然災害 について、人間生活と関連付けて主体的に探究していること。探究の結果理解を 深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 3 学 期 | | 生活する上で生じた疑問の探究 | 生活していく上で生じた疑問を主体的に探究していること。 探究の結果理解を深め、表現ができること。 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| | | | | | | | 70 |

 保健体育
 科目
 体育

 単位数: 3
 単位

)

 高等学校
 令和6年度(1学年用) 教科

 教科:保健体育
 科目: 体育

 対象学年組:第 1 学年
 1 組~

 3 組

教科担当者: (中谷 松田 首藤) 使用教科書: (現代高等保健体育

教科 保健体育 の目標:

【知 譲 及 び 技 能 】各種の運動の特性に応じた技能など及び社会生活における領集・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】運動や領庫についての自他や社会の課題を免見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を美う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 | |
|--|----------------|----------------------------------|--|
| 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわ | | | |
| たって運動を豊かに継続することがでいるようにするため、運動の多様性や体力の必 | | | |
| 要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。 | | す、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに健康・安 | |
| | | 全を確保している。 | |
| | | | |
| | | | |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-----|--|---|---|---|---|---|----------|
| | オリエンテーション 体育理論 身体能力の向上について、その理論や具体的な方法について理解し、計画 的に実践することができる。 | 体育授業に随む心構えと授業ルール、授業の進め方、取り組み姿勢 について 運動やスポーツの効果的な学習の 仕方、実生活への位置づけ | スポーツテストなどを通じて、筋力・持久力・柔軟性・敏捷性などの能力がどう向上 していくのか、合理的・計画的な実践力と互いに協力し、安全に取り組むことができる。 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 学 | 酸上競技(短距離走) 体の使い方や記録向上のための計画的な取り組みや走法について理解す る。 体へくり運動 万級性を育みながら、種々の体育種目と連動し生かすことができる。 | 100m港 200m港 400m港 コーディネーショントレーニング | 各距離における走り方について理解し、記録向上のために合理的・計画的に取り組む ことができる。 体の使い方や身のこなし方について、様々な種目と関連付けて取り組み、なおかつ互 いに協力しながら協働できる。 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | 末款 4 株法の内、2 核法についての 除法の 2 株 3 株 4 株 3 株 3 株 3 株 3 株 3 株 3 株 3 株 3 | 自由形(クロール) 平泳ぎ | ロール・平泳ぎの泳法について理解し、意欲的に取り組み技能を高めることができる。また記録向上のために計画的に泳ぎこみ、また安全に配慮し互いに協力して泳法や技能向上に取り組むことができる。 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| | 課技 (バレーボール) ネット型の競技を通じての協働、また種目の特性としての個人の技術・技 能を高め、試合形式の中での仲間意識の向上を目指す。 ゲンス リズムに合わせた全身運動、各ダンスジャンルのリズムや動きを通して身 リズムに合わせた全身運動、各ダンスジャンルのリズムや動きを通して身 | バレーボール | バレーボールびおける個々の技能を高め、また合理的・計画的に考えて技能向上に取り組むことができる。また用具や施設の安全管理、試合形式における役割を責任もって果たし、互いに協力して、運営できる。 | | | | 13 |
| - | スペスにロルビルスの単数、モンノスペストンルンルスペー版でも通じくの 接運動のみならず、文化的側面としてのダンスも学ぶ。 器械運動(マット運動) 回転系の種目、例立系の種目、それらの混合の種目の特性を理解し、表現 としての技の組み合わせを到達地点とする。 | ダンス | 様々なジャンルのダンスや個々の体の動きのみならず表現についても理解し、合理 的・計画的に技能向上のために取り組むことができる。また互いに協働し安全に留意 して活動することができる。 | | | | 13 |
| | | 器械運動(マット運動) | 前転や後転といった回転系の技に開脚や伸膝といった要素を取り入れるとともに例立 系の動きを選び者技の完成度を高めるとともに安全面への配慮に細心の注意を払い仲 間と協働して計画的に取り組むことができる。 | | | | 13 |
| 3 学 | 陸上競技(長距離走) 男子10km、女子8kmを到達地点として、各距離に応じた走り方や心肺能力の向上について理解し、計画的に記録向上させることができる。 | 陸上競技(長距離走) | 各距離における走法の理解、到達距離に向けた計画的な取り組みができ、互いに協力 することができる。 | | | | 27 |
| 期 | | | | | | | 合計 |
| L | | | | | | | |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 保健体育 科目 保健

教 科: 保健体育 科 目: 保健 単位数: 1 単位

対象学年組:第 1学年 1組~ 3組

教科担当者: (首藤) 使用教科書: (現代高等保健体育))

教科 保健体育 の目標:

【知 識 及 び 技 能 】個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 健康についての自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|----------|----------------|----------------|
| | | |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------|---|---|---|---|---|---|-------|
| | 現代社会と健康 ・健康の捉え方 | 私たちの健康の姿 健康の捉え方 健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり | 健康について正しくとらえること、理想の健康についての 課題を考えること、健康とは何かの問いに対し、自分なり の答えを考えること。健康な生活への課題と改善に主体的 に取り組もうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 1 学期 | 現代社会と健康 ・生活習慣病などの予防と回復 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 | 生活習慣病と予防 食事と健康 運動と健康 体養・睡眠と健康 喫煙と健康 喫酒と健康 薬物乱用と健康 | 生活習慣病の原因について毎日の食事・運動・休養との関係性について正しく理解し、将来の生活への課題を主体的に見つけること、また飲酒や喫煙といった嗜好や習慣と健康への影響について考え、薬物乱用防止の知識を深めようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | |
| 2 | 現代社会と健康 ・現代の感染症と予防 | 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 | 新興感染症や再興感染症、また現代における感染症についての知識を深め、感染症の予防や課題について考え、あわせて、性感染症との関連についても主体的に取り組もうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 2 学 期 | 現代社会と健康 ・精神疾患の予防と回復 | 欲求と適応規制 心身相関とストレス ストレスへの対処 心の健康と自己実現 | 心の安定と欲求、欲求不満との関係について、心身相関の 観点からも理解を深めることができ、なおかつ自らの課題 を考えることができる。ストレスへの対処や現代における 課題について主体性をもって解決するために取り組もうと している。 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | |
| | 現代社会と健康 ・安全な社会づくり | 交通事故の現状と原因 交通社会における運転者の資質と 責任 安全な交通社会づくり | 交通事故の原因について理解し、安全運転の必要性と高校 生時期における交通マナーの問題点について自ら考え課題 を見つけることができる。安全な交通社会について主体的 に考え課題解決に取り組もうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 3 学期 | 現代社会と健康 ・応急手当 | 応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法 日常的な応急手当 | 傷病者に対しての応急処置(RICE処置)について理解し、また心肺蘇生法について知識だけでなく実践力も身につけている。また季節や状況に応じて傷病等発生の予測について考えることができ、主体的に課題解決に取り組もうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 35 |

教科 芸術

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科

の目標:

芸術 科目 音楽 I ^{単位数: 2} ^{単位}

数 科: 芸術 科 目: 音楽 I 対象学年組: 第 I 学年 1 組~ 2 組 数科担当者: (1組: 薄) (2組: 薄) 使用教科書: (MOUSA 1 (3組:薄) (組:) (組:)

【知識及び技能】芸術に関する各教科の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる。

科目 音楽 I の目標:

科目 1 0日標:

[知識及び比較]

[知識及び比較]

[思考力、判断力、表現力等]

[趣想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様
自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価し 主体的・協働的に音楽の講活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするため
に必要な技能を身に付ける。
会会の場合、参加なも何とを高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会の場合である。

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 歌! | 器月 | 鑑賞 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配 当 時 数 |
|------|--|---|-----|----|-----|---|---|---|---|------------------|
| | 曲にふさわしい発声や奏法 「知識及び技能」言葉の特性と曲値に応じた奏法との関わりについ て理解するとともに、曲にふさわしい奏法などの技能を身に付け る。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関 わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫で きる。 | 指導項目 ・ 斉唱 教材 ・ 校歌・Ave Maria ・ 一人 1 台端末 | 0 | | | 知識及び技能 音葉の特性と曲機に応じた表法との関わりについて理解する とともに、曲にふるわしい奏法などの技能を身に付けている。 [里考力、判断力、表現力等] 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のメージをもって戦者表現を創意工夫できる。 「学びに向かう力、人間性等] 「撃唱や器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 繁唱や器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する活動に主体的 に取り組むことができる。 | ・ビアノ、ギター 【教材】 ・きらきら星 ・Happy Birthday to You ・一人1台端末 | (| Э | 0 | | | | | |
| 1 学 | 世界の様々な音楽 【知識及び技能】 曲想や表現上の効果と音楽構造との関わりについて理 解する。 思考力、判断力、表現力等】 曲想や曲に対する評価とその根拠につい で考え、音楽の良さを味わって聴くことができる。 【学びに向かう力、、別性等】 曲想や曲に対する評価とその根拠につい で考え、音楽の良さを味わって聴く活動に主体的に取り組むことができ で考え、音楽の良さを味わって聴く活動に主体的に取り組むことができ | · 楽典 【教材】 | | | | 【知識及び技能】曲想や表現上の効果と音楽構造との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】曲想や曲に対する評価とその根拠について考え、音楽の息さを味わって聴いている。 【学びに向かう方、人間性等】曲想や曲に対する評価とその根拠について考え、音楽の良さを味わって聴く活動に主体的に取り組んでいる。 | | | | |
| 期 | ō. | ・カルメン ・O sole mio ・Music Note ・一人1台端末 | 0 | | | | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | アンサンブル 【知識及び技能】様々な表現形態による表現の特徴について理解すると ともに、曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わり について考え、自己のイメージをもって表現を創意工夫できる。 【学びに向かう力、人間性等】 | 【指導項目】 ・アンサンブル 【教材】 ・ドレミの歌 ・チェリー | | | | 【知識及び技能】様々な表現形態による表現の特徴について理解するとともに、曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わりに ついて考え、自己のメージをもって表現を創窓工夫している。 | | | | |
| | 歌唱や器楽の特徴および様々な演奏形態による表現の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組むことができる。 | ・一人 1 台端末 | 0 0 | 0 | 0 | 【学びに向かう力、人間性等】 でながなどのであった人です。 歌唱や器楽の特徴および様々な演奏形態による表現の特徴を生かし、表現 を工夫して演奏する活動に主体的に取り組んでいる。 | | 0 | 0 | 9 |
| | 様々な時代の音楽 【知識及び核能】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりに ついて理解し、曲にふさわしい表現をするために必要な技術を身に付け る 【思考力、判断力、表現力等】 知覚したことと感受したこととの関わり について考え、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考える とともに、自己のイメージをもって表現を創定工夫できる。 | 【指導項目】 - 19世紀の音楽 - 日本の音楽 - ミュージカル - 20世紀の音楽 【数材】 | 0 | | 0 | 【知識及び技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりについて理解し、曲にふさわしい表現をするために必要な技術を身に付けてい | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 2 学期 | 【学びに向かう力、人間性等】様々な音楽の良さや美しさに関心を持ち、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組むことができる。 | ・ジャズ ・ロック ・世界の民族音楽 ・日本の歌 ・ハイスクールミュージカル ・一人1台端末 | (| Э | 0 0 | 【男者力、判断力、表現力等 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えるとともに、自己のイメージをもって表現を創意工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】様々な音楽の良さや美しさに関心を持ち、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 793 | 業曲創作 【知識及び技能】音素材、音を連ねたり重ねたりした時の響きについ て、表したいイメージと関わらせて理解し、手反復、変化、対照などの 手法を活用して音楽をつくる技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わり について考え、自己のイメージをもって創作来現を創意工夫できる。 【学びに向かう力、人間性等】音楽の特徴・構成上の特後を生かし、表 【学びに向かう力、人間性等】音楽の特徴・構成上の特後を生かし、表 | 【指導項目】 ・楽曲創作 ・著作権 【数材】 ・ビーターと狼 ・動物の謝内祭 | | | 00 | | 0 | 0 | 0 | 13 |
| | 現を工夫して創作する活動に主体的に取り組むことができる。 曲にふさわしい表現 | - 著作権テキスト (文化庁) - 楽譜制作ント Flat」 - 人 1 台端末 【指導項目】 | | | | ついて考え、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。 「学びに向かう力、人間性等)音楽の特徴や構成上の特徴を生かし、表現 を工夫して創作する活動に主体的に取り組んでいる。 | | | | |
| 3 | 【知識及び技能】音葉の特徴と曲種に応じた発声との関わりを理解し、 曲にふさわし、奏社とどの技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わり について考え、自己のイメージをもって販唱表現を創意工夫できる。 【学びに向かう力、人間性等】言語の違いによる歌唱の特徴を生かし、 表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組むことができる。 | 日本語の歌・イタリア語の歌 【教材】 ・小さな空・Caro mio ben・一人 1 台端末 | 0 | | | 【知識及び技能】言葉の特徴と曲種に応じた発声との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のメージをもって転唱表現を創意工夫しての、 【学びに向かう力、人間性等】言語の違いによる歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 子期 | 演奏会企画 【知識及び技能】歌唱や器楽等の特徴を理解し、曲にふさわしい表現や 他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。 【思考力、判断方、表現功等】知覚したことと感受したこととの関わり について考え、自己のイメージをもって表現を創意工夫できる。 【学びに向かう力、加性等】声や楽器の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組むことができる。 | 【指導項目】 ・任意の曲の演奏 【教材】 ・任意の楽曲 ・一人1台端末 | 0 (| 0 | С | ■し考え、目口のイメーンをもつし衣現を削息上大ししいる。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | | | | | | 【学びに向かう力、人間性等】声や楽器の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する活動に主体的に取り組んでいる。 | | | | 70 |

英語コミュニケーションI

の目標:

【 知 識 及 び 技 能】新出単語や熱語を、使用される状況下に応じた適切な訳で読み取り、またそれを用いて表現できる。様々な国の人の免話やスペルが混在する本文を適切に聞き取ったり、読み取ったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】広告・評論文・データ情報や物語などを読んで適切な情報を読み取り、整理・要約することができる。またそれに対して自分の意見や感想を表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】多様な文化の在り方を理解して多様性を受け入れ、真摯に相手の伝えようとする姿勢に向き合い、対話・意見論迹等に積極的に参加することができる。

科目 英語コミュニケーション [の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かうカ、人間性等】 |
|--|----------------|--|
| 新出単語や熱語を、使用される状況下に応じた訳で読み取ったり、適切に本文を聞き 取ったりすることができる。また自分のことや意見などを簡単な表現で伝えることが できる。 | | 多様な文化の在り方を理解して多様性を受け入れ、真摯に相手の伝えようとする姿勢に向き合い、 対話・意見論述等に積極的に参加することに慣れる。 |
| | | |
| | | |

| | | | Ŷ | 頁域 | | | | П | Т | Т | Ă |
|------------|--|---|---|----|------|-----|---|---|---|---|---------|
| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 鬪 | 読 | 話にやり | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 200 000 |
| | 高校表語への導入 「加速なフザ記制・文法を用いて正しく自己表現できる。 「差別・大概形の、表現力等」 相談になりて適切に自己表現できる。 「学びに知ったり、、規則等」 自者について機能的に自己表現する。 | 指導事項 基本例文 中学文法事項 教材 高校英語へのステップ 一人1台端末 | 0 | 0 | 0 0 | 0 0 | 【知識及び技能】 中学の実施師・文法事項を理解し、正しく用いることができる。 【思考力、計画力、表現力句】 「記考力、計画力、表現力句】 「「生活、「はない」、表現力句」 「生活、「はない」、「はない、「はない」、「はない、」はない、「はないい、」はない、「はない、」はない、「はない、」はない、「はないい。」、「はない、「はない、」はない、「はない、「はない、」はない、「はない、「はない、」はない、「はないい、」はない、「はない、」はない、「はない、」はない、「はない、「はないい、」はない、「はないい、」はない、「はない、」はない、「はない、」はない、「はない、「はない、」はない、「はない、」はない、「はない、」はない、「はない、「はない、」はない、「はない、」はない、「はない、」は | 0 | 0 | 0 | |
| | Lesson 【表面及び技能】 【表面及び技能】 開発の文をとその影響について理解し、自分の考えを表現する。 【書名力、構造力、表現力等】 に当たことの大力を開発とか解したり、バランスの良い哺食の在り方を考える。 自身の個食事情について機能的に表現する。 | · 指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk 教材 教材書Big Dipper 一人 1 台端末 | 0 | 0 | 0 (| | 「知識及び技能」 朝食の欠をとその影響について情報を整理し、要約できる。 [思考力、判断力、表現力等] 求められる情報を選回に抽出して回答でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 [学びに向かう力、人間性等] 報酬的に発話でも、発間に対して経営しようとする。パランスの良い朝食について、意見を述 べることができる。 | 0 | 0 | 0 | |
| | Limental 「暗観及け技能 影響があった。 | · 指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk · 教材 教科書Big Dipper 一人 1 台端末 | 0 | 0 | 0 0 | 0 0 | 【毎個表び芽生】 かるネッドとのいての情報を集約し、整理してまとえることができる。 1.更考力、判断力、差現力等】 本表められる情報を抽出して副学でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 【学びた同かう力、人間性等】 機能的に実話したり、発間に対して発言しようとする。地元のゆるキャラに興味を持つことができる。 | 0 | 0 | 0 | |
| | 定期考查 | | | | | | | 0 | | 1 | |
| | Leona (1988年) 「一般の企業を開発した。 「一般の企業を明確にし、まとめる。 「日本力・関係した対して、動物と人間の違いを明確にし、まとめる。 「日本力・利助のリーゲーの在の方について情報を整理・比較し分析する。 「日本のリーゲー社を構造し、あるべきリーダー権を考え、表現する。 | ·指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk · 教村書Big Dipper 一人1台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 【知識及び技能】 動物を対しています。 動物を対しています。 動物を対しています。 動物を対した解析を表現力等) が関いています。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいまする。 はいます。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまる。 はいまな。 はいまる。 はいまな。 はいまる。 はななる。 はななな。 はななな。 はななな。 はななな。 | 0 | 0 | 0 | |
| | - Lenond ・ 原理機及な技能】 いろいろなポーツの歴史や魅力を理解する。 [思考力、判断力、表現力等] ・ ルスポーツがスポーツがどうがたついて、理由を示して自分の考えを書く。 【学びに添かう力、、関性等】 ・ 機能のスポーツについて考え、理由を示して自分の考えを伝えわう。 ・ 機能のスポーツについて考え、理由を示して自分の考えを伝えわう。 | ·指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk · 教材 参时 一人1台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 【知識及び技能】 いるいろなスポーツの歴史や魅力を知り、情報を簡潔にまとめることができる。 いるいろなスポーツの歴史や魅力を知り、情報を簡潔にまとめることができる。 表現力等 なかられる情報を抽して回路でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 最新のスポーツについて積極的に発話したり、発問に対して発音しようとする。 | 0 | 0 | 0 | |
| | 定期考查 | | | | | | | 0 | | | |
| | (日本政立社会) (| · 指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk 教材 教科書Big Dipper 一人 1 台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 【知識及び技能】 よが様々なとデームで使われていることを知り、情報を簡潔にまとめることができる。 まないました。 本現力等】 本現力等】 本場かられる機能を出出して同等でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 AIIによる芸術について積極的に発話したり、発問に対して発言しようとする。 | 0 | 0 | 0 | |
| | Lesson6 【知識及び技能】 以上を禁止の領域、接入第一 以上を禁止の領域、接及外第一 が表現の第二、接及外第一 が表現の第二、接及外第一 は一 は一 は一 は一 は一 は一 は に は に に に に に に に | ·指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk ·教材 教科書Big Dipper 一人 1 台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 【知識及び技能】 日本と世界の幸福度、ドミニカ人の幸福度の高さを知り、簡潔にまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等) 未次られる行機を出出して間等でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 幸せを感じる方法について積極的に発話したり、発問に対して発言しようとする。 | 0 | 0 | 0 | |
| 7 | 它期考查 | | | | | + | | 0 | | _ | |
| 10 ope ope | rscon] 「知識女兄技能」 「知識女兄技能」 「他ディブが抱える問題、日本の観光地が抱える問題について理解する。 [思考力、帰所力、表現力等] ・展光公舎の起こる原因と考えられる解決法について表現できる。 「学びに向かう力、人間性等」 、提出を示して自分の考えを伝えあう。 | ·指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk 数材 数科書Big Dipper 一人1台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 【知識及び抹能】 ・ | 0 | 0 | 0 | |
| 100 | rescond [知識及び技能] (知識及び技能] Azandairaがどのようにして夢を叶えたのかを理解する。 記書力、物部大、表党力制 ささな音なくの理解について表現できる。 「行きな音とくの理解について表現できる。 できな音について、理由を示して自分の考えを伝えあう。 | · 指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk 教材 教材書Big Dipper 一人 1 台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 「知識及び技能】 Kazuhiroがどのようにして夢を叶えたのかを知り、情報を簡潔にまとめることができる。 「思考力、判断力、表現力等】 未成められる情報を抽出して同答でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな名言について積極的に発話したり、発問に対して発言しようとする。 | 0 | 0 | 0 | |
| 7. | 它期考查 | | | | | | | C | | _ | |
| | pszenik 伊瀬茂(大坂 「田寿力、中間力、東東力略」 「田寿力、中間力、東東力略」 「東京大阪市の大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪大阪 | · 指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk · 教材 書Big Dipper — 人 1 台端末 | 0 | 0 | 0 0 | 0 0 | 「知識及び抹迷】 ゴミの病別用の新しい形を知り、情報を簡潔にまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 求められる情報を抽出して回答でき、またそれに対する自身の意見を表現できる。 【学びに物かう力、人間性等】 ゴミを減らす方法について積極的に発話したり、発問に対して発音しようとする。 | 0 | 0 | 0 | |
| 45 | escentio 物識及び技能] 本企業の原を収取り組みについて理解する。 医考力、物部力、表現力等] で性がの状で辺離する理能について、解決策について表現できる。 (学びのはつかり、発力を開いていて、解決策について表現できる。 (学びに向かり力、大理能を示して自分の考えを伝えあう。 性性の影響状況について、理能を示して自分の考えを伝えあう。 | ·指導事項 skimming/scanning comprehension check topic talk · 教材 書Big Dipper 一人1台端末 | 0 | 0 | 0 0 | | 「知識及び技能] 日本企業の様々な版り組みを知り、情報を簡潔にまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] 。 | 0 | 0 | 0 | |
| | 定期考查 | | | | | | | 0 | | _ | |

小国語 科目 論理表現 I _{単位数: 2 単位} 外国語

(Cクラス:村田)

高等学校 令和6年度 (1学年用) 教科 教 科: 外国語 科 目: 論理表現I 対象学年組:第 1 学年 2 組~ 3 組 教科担当者: (Aクラス: 青木) (Bクラス: 安野) ((使用教科書: (いいずな書店 Harmony I English Logic and Expression

教科 外国語 の目標:

【知 譲 及 び 技 能 1新出単語や熱語を、使用される状況下に応じた適切な訳で読み取り、またそれを用いて表現できる。様々な国の人の発話やスペルが混在する本文を適切に聞き取ったり、読み取ったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等、広告・評論文・データ情報や物語などを読んで適切な情報を読み取り、整理・要約することができる。またそれに対して自分の意見を表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等、多様な文化の在り方を理解して多様性を受け入れ、相手の伝えようとする姿勢に真摯に向き合い、対話・意見論述等に積極的に参加することができる。

科目 論理表現 I

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|----------|----------------|--|
| | | 文法構造やその理屈を知ることによって英語における自己表現がさらに深化することを実感できる。失敗を恋れることなく、積極的に英語表現しようとする姿勢を培う。 |

| Г | | | 領垣 | ŧ | | | | | П | \neg |
|------|---|--|----|---|---------|--------|---|----------|-----|--------|
| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 闡 | | 18 19 1 | ٦. | 評価規準 知 | 思 | . 態 | 配当時数 |
| | Passan 2- 「知識及び投記 明瀬東原に着目して、適切に限したり、自分のことを表現したりできる技能を身に付けませる。 『思考力、明朝の近郊が、東境力等 『思考力、明朝の近郊が、東境力等 また、表現したいとおりに時刻表現を扱うことが 「学びに向かう力、人間性等 自分の習慣や過去の習慣を機能的に表現する積極性を持たせる。 | - 指導事項 現在: 過去 - 未来 自己表現 topic talk ・教材 教科書Harmony 準親ワークブック 一人 1 台端末 | | (| | | 「無難及び打雑」 ・ 特別規模を得かて、自分の習慣で過去の習慣、今後の予定などを伝えることができる。 に思考力、解析力が、規模力等」 能書の大脈を見聞きして、情報を適切に把握することができており、適切な返事までできている。 「学びに向うが人、使職と等 「学びに向うが人、使職と等 ・ 「機能を加える最や事業の作業をすすかあまうとしている。 | 0 | 0 | 6 |
| | Lessonは 「知識及び技能」 商本物はと現代元 「の違いと関係し、これまでの経験・組織・光丁を適切に区別 する力を対し、また、自分のことを通切に実現できる技能を習得させる。 【思考力、時間力、実現力等】 また。 「また、時間力、実現力等」 ささせる。 【『東京に向かう力、人間性等】 これまでの経験・継続、完了を積極的に表現する姿勢を持たせる。 | ・指導事項 現在完了 自己表現 topic talk ・数材 数科書Harmony 連携ワークブック 一人1台端末 | | (| | | 【知恵及打2部】 最高力以集を生点から現在までの機能・経験・完了を区別出来で、適切に実務表現できている。 「思考力、判断力、表現力学 也者の実施を見難して、情報を通切に把性することができており、適切な返事までできている。 【学びに向かう力、人間性等】 優極的に気温や奪棄の作業をサナめ、情報交換しようとしている。 ○ | 0 | 0 | 6 |
| 1 学期 | | - 指導事項 助動詞 自己表現 topic talk 教付書 地田田田町 単長ワークブック 一人1台端末 | | (| | | 【知度及び野蛇】 別期間各種の取を増解し、表現したい内容に合わせて使い分けることができている。 助動間の組み 合わせや、実積造の規則をしつかり理想して表現できている。 【思考力、実施力、表現力等 を大えるでの影響があるより、記でありません。 | 0 | | 6 |
| | Lesson 【知識及び技能】 新の連転を選解し、様々な現点に立って動作を受ける側 受動能における主張の立場の運転を選解し、様々な現点に立って動作を受ける側 受動能に立ちなる概念され、また適切な指摘を習得させる。 【思考力、判断力、提致が何されたのか」などの情報を適切に読み取る力を美 けせら。 「動かり大」、「誰が何さされたのか」などの情報を適切に読み取る力を美 けせら。 同からかり、人間性等 時間内に様々な受動態を創作する思像力を持たせる。 | ・指導事項 受動態現 topic talk 教材 数料書Harmony 準拠ワークブック 一人1台端末 | | (| | | 【知識及び技能】 動作の受情制から受け手順に変わることを理解し、さまざまなものの現点からの原用であることを 理解できる。そので、健康な理点から愛動態の文を作ることができている。 東文から動作の知信念、受け手をしっかり選集することができている。また群動詞を用いた受動態の の文格高について親田・東央できる。 「学びに向かう力、人間信等」 ②他 ②他 ②他 ②他 ②他 ②他 ②他 ②他 ③他 ③他 ③他 ③他 ③他 ③他 ③他 ③他 ③他 ③ | 0 | 0 | 6 |
| | 定期考査 | | | + | + | $^{+}$ | | \vdash | H | 1 |
| | [Lesson2-10] 【知識及び投資] のの表現を学ばせ、券近なことについて表現する技能を身に 付けませる。 「知識及び投資] のの表現を学ばせ、券近なことについて表現する技能を身に 付けませる。 「思考力、表現力等] ようの予定側に対を伝える表現であるのかを判断し、適切に取す力を身に付けま 大きの予定側に向かう力、人間性等] 第手変調を持たずに、不定側が表現する内容を読み取るうとする主体性を育む。 | - 指導事項 不定詞明 自己表記 topic talk ・教材 教科書Harmony 準拠ワークブック 一人 1 台端末 | | (| | | 【物風及び接続】 不定胸の3 別語を無電ではなく、表現したい内容に応じて自然とその文簿命を使い分けることができている。 【思考力、場所力、表現力等】 不定部が後とはてもその状況から、どのような訳になるのかを判断できる。また表現したい内容に 【学びに向かう人、人間性号】 「学びに向かう人、人間性号】 素手遊儀を持たずに、規固ではなく、実語会話の設議で用法を抵おうとしている。 | | | 7 |
| | Leson 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | - 指導事項 動名詞 自己表現 topic talk - 教材 教科書HATEODY 単拠ワークブック 一人 1 台端末 | | | 5 0 | 5 0 | 【知識及び技能】 動名が名称としての働きを重解し、自分のことを適切に表現することができている。 動名が名称を指し、大変人等 「報告を表現を通い、無数人は 「報と理解することができる。 【字びに向かう力、人間性等】 「ないに向かう力、人間性等】 「ないに向かう力、人間性等」 「本質などの対象を持たずに、規胞ではなく、美語会話の認識で用法を使おうとしている。 | | | 7 |
| 2 | de tip de de | | | | | | | | | |
| 邦 | 定期考査 | - 指導事項 分詞 自己表現 topic talk - 教材 静larmony 準機ワークブック 一人 1 台端末 | | (| 5 0 | 5 (| 【知識及び技能】 名間に具体的な規模を持ちまする場合であることを理解し、現在分詞と過去分詞を載い物に使い分ける 技能を名付している。 【思考力、判断力、表現力等】 分別解文であると課題し、文献に合った接続詞のニュアンスを判断することができている。 ○ 「考りて添かっ分」人間代等 の「対している」 ○ 「分別を用いて身が限りの」ことを機能的に表現しようとしている。 | | | 5 |
| | Lesson 14-15 【知識及び技能】 列間の提供技能】 列間の関係に関明を加える文章であるが、文構造に大きな違いがあることを理解させる。また関係別を選切に使って表現する技能を容得させる。 【思考力、場面、表現力等】 【容切、に向ふう力、人、開性等】 様々な人物や物への説明を選切にしようとする積極性を特たせる。 | - 指導事項 関係調力 関係副制 自己表現 topic talk ・数材 数料書Harmony 単拠ワークブック 一人1台端末 | | (| 0 0 | 5 0 | 【知識及び技能】 関係化な部内化解を理解し、その後に終く節を適切に構成することができている。また、適切に関 したり、情報と判断することができている。 【思考力、判断力、美鬼力等】 取明を支む人を打断がようい。かっなかかの情報を適切に理解・判断することができている。ま 〇 (全球に向かう力、人類性等) 「命の回りの人物で事を管備係例を用いて具体的に説明しようとしている。 | | | 5 |
| | 定期考査 | | | H | + | + | | \vdash | Н | 1 |
| 3 | Essanth-7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | ・指導事項 比較 自己表現 topic talk ・教材 教科書Harmony 準親ワークブック 一人1台端末 | | (| 5 0 | 5 0 | 【知識及打球型】 ものことの比較、同位表現を理解し、比較したいものやその優劣を適切な文構造で組み立てること かできる。 【思考力、報告か、表現力等】 【思考力、報告か・との優劣が適切に認み取ることができる。またそれに対する グータへの最初を表現することができている。 【字びに向かうか、人間性等】 版名取るたグータを数字科的知識と格めて多面的に説解しようとしている。 | | | 9 |
| 学期 | Lesson 18 【知識及び技能】 【知識及び技能】 語法報格を戦い切けられ能を習得させる。 【思考力、機能力、提升・ 【思考力、機力、提升・ 【思考力、機力、提升・ 【思考力、機力、人工を引き、 「と呼んした」というになっているのか、タラレバ表現を適切に読み取り、判断する力を 材に付けさせる。 【学びに向かう人、肌性等】 もしも、の自由表現を他と機能的に足見交換し、機能的に会話をしようとする姿 動をもたせる。 | ・指導事項 仮定法 自己表現 topic talk ・教材 教科書harmony 準拠ワークブック 一人1台端末 | | | 0 | 5 0 | 【知識及び技能】 直接か、仮注施の文構造を理解し、表現したい内容に応じて使い分けることができる。 【思考力、開始の大、表現力等】 その表文を化て、直接能であるかの仮定値であるか、また、仮定施選去であるか、仮定拡大選去であるから物質があるか。 「ないと傾向できる。そして想象が企生かして確々なケランパ頻繁を表現することができる。 「ないと向かさらる」として数とかと生かして確々なケランパ頻繁を表現することができる。 「もしも一ならば」の質問をつくるにあたり、想像力を生かして機械的に取り組むことができる。 | | | 8 |
| | 定期考查 | | | | | | | | | |
| L | と別で基 | | | | | | 0 | _ | Н | 1 |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 情報 科目 情報 I

単位数: 2 単位
 教 科: 情報
 科 目: 情報 I

 対象学年組:第 1 学年 2 組~ 3 組

教科担当者: (2組:田中) (3 使用教科書: (高等学校 情報 I) (3組:田中)

教科 情報 の目標:

【知 識 及 び 技 能】問題の発見・解決の方法を理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けることができる。

【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見出す力を身に付けることができる

【学びに向かう力、人間性等】情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会に主体的に参画することができる。

科目 情報 I の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|----------|--------------------------|--|
| | 発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的 | 情報と情報技術を適切に活用するとともに、 情報社会に主体的に参画する態度を身に付け る。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価基準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|------|-----------------------|--|---|---|---|---|-------|
| | ワープロソフトの使い方 | ワープロソフトの使い方を知る ホームボジションを身につける タイピングの速度を向上させる 文字配置を変更できるようになる レイアウトを変更できるようになる 図表の挿入の仕方を学ぶ | ワープロソフトを使えるようになり、タイ ビング速度を向上させることができたか。 ・文章のレイアウトを自在に整えることがで きるようになったか。 | 0 | | 0 | 10 |
| 1 学期 | コンピュータのしくみ | ・コンピュータの五大装置について学ぶ ・ハードウェアのはたらきを知る ・コンピュータのスペックの調べる ・65の種類と機能を知る ・ファイルシステムを理解する ・拡張子のはたらきを理解する | ・ハードウェアのはたらきを理解し、説明できるようになったか。 ・ソフトウェアのはたらきを理解し、説明できるようになったか。 | 0 | | | 8 |
| | 表計算ソフトの使い方 | 表計算ソフトの基本操作を学ぶ ・オートフィル操作をできるようにする ・数式や関数を使えるようにする ・グラフの作成方法を学ぶ ・グラフの注意点を学ぶ ・グラフの注意点を学ぶ | ・表計算ソフトをの基本的な技能 (入力、 オートフィル、数式、関数、グラフ) を身に 付けることができたか。 ・表計算ソフトを用いて、効率よく問題を解 決することができたか。 | 0 | 0 | | 8 |
| | プレゼンテーションソフトの使い 方 | ・ソフトの基本操作を学ぶ・プレゼンテーションスキルを身につける | ・プレゼンテーションソフトの基本操作を身 につけることができたか。 | 0 | | | 4 |
| | プレゼンテーション | ・人に伝わる話し方を身につける・ブレゼンテーションの構想を練る・人に伝わるスライドを作る・本番に向けてリハーサルをし、スムーズ | ・人に伝わるプレゼンとはどのようなものか理解できたか。・人に伝わるスライドを作ることができたか。 | | | | |
| | | に発表できるようにする ・聴衆の興味を引くプレゼンをする ・他者の発表を評価する | ・聴衆の興味を引くプレゼンテーションを行 うことができたか。 ・他者のプレゼンテーションを評価し、改善 点を考えることができたか。 | | 0 | 0 | 6 |
| 2 学期 | ビジュアルプログラミング | ・アルゴリズムを考えることの重要性を知る ・プログラミングの仕組みを理解する ・Scratchでプログラミングを行う ・コンピュータが動く仕組みを理解する ・よいアルゴリズムとは何かを考える | ・コンピュータはアルゴリズムに従って情報を処理していることを理解できたか。 ・アルゴリズムを考え、ブロックでプログラミングをすることができたか。 ・アルゴリズムの良し悪しについて考察し、他者に説明できたか。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | デジタル情報の表現 | ・2進法の数え方に慣れる ・情報量の単位を理解し計算できるように なる ・2進数の足し算、掛け算ができるようになる る ・2進数・10進数、2進数・16進数の基数変換 ができるようになる | ・情報量の単位を理解して、計算問題を解く ことができたか。 ・2進数どうしの足し算、掛け算について理 解し、計算問題を解くことができたか。 ・計算によって基数変換をすることができる ようになったか。 | 0 | | | 6 |
| | アナログとデジタル | ・アナログ、デジタルとは何かを理解する ・アナログ、デジタルのメリット、デメリットを理解し説明できるようになる | ・アナログ、デジタルのメリット、デメリットを理解し、説明することができたか。 | 0 | 0 | | 4 |
| | 文字、音声、画像、動画のデジタ ル化 | ・文字情報を届ける仕組みを理解する ・文字コード表を読み取ることができるようになる ・文字コードの歴史や種類について知る ・文字化けとはどのような現象なのかを体験し、理解する ・音声、画像、動画のデジタル化の仕組み について理解する | ・文字情報を届ける仕組みやその歴史を理解 することができたか。 ・様々な情報が、標本化、量子化、符号化の 手順でデジタル化されていることを理解し、 他者に説明することができたか。 | 0 | | | 6 |
| 3 学 | プログラミング | ・コンピュータは人間からの命令に従って 情報を処理しているということを理解する ・プログラミングによってコンピュータに 命令を行い、簡単な計算を自動化すること ができるようになる | ・入出力、変数、データ変換などのPythonの 基本操作を習得できたか。 ・簡単な計算をコンピュータが処理できる形 にモデル化できたか。 ・基本操作を基に、簡単な計算を自動化する 仕組みをつくることができたか。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 情報技術が社会に及ぼす影響 | ・様々な事象を情報とその結び付きとして 捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情 報技術を適切かつ効果的に活用する力を身 に付ける ・情報と情報技術を適切に活用するととも に、情報社会に主体的に参画する態度を身 に付ける。 | ・問題の発見を行うことができたか。 ・問題解決に向けて計画を立てることができたか。 ・計画に従って問題解決を実行できたか。 ・計画どおりにいかなくなった際、軌道修正 することができたか。 ・問題を解決したことを、客観的に評価する ことができたか。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | | | | | | | 合計 70 |

農業 科目 農業と環境 (栽培) ^{単位数: 2} ^{単位} 高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 農業

数 科: 農業 科 目: 対象学年組:第 1 学年 1 組 農業と環境 (栽培)

定期考査

教科担当者: 木村 使用教科書: (実教出版「農業と環境」 教科 農業

【 知 識 及 び 技 能 】農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

| 141 | 目 農業と環境(栽培) 【知識及び技能】 | の目標: | 判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、 | I bate | 年1 | | |
|-------|---|--|--|---|--------|------|---|----|
| 農業 | [知識及り技能] 業の栽培分野について体系的・系統的に理解するとともに 技術を身に付けるようにする。 | . 関連す 農業の栽培分野に関す | | 展業の栽培分野について基礎的な知 るよう自ら学び、農業の振興や社会 取り組む態度を養う。 | 歳と技術 | 析を実際 | | |
| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配等 |
| | ・作物に興味関心を持つ。 ・作物の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に増え、主体的に学ぶ資献と態度を身につける。 ・作物栽培とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、諸展超を発見、解決に向けた具体的な取組を考え、発表により表現できる。 ・作物の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、技術の仕組みを理解する。 | 「栽培の基礎」 ・たねと発芽・たねまき ・成長のしくみと管理 ・作物の養分と配料 ・生活の中化物 ・作物の自然分類 ・作物の生育を支える土 | ともに、関連する技術を身に「思考力、判断力、表現力等」 作物栽培とそれらの生育環 れる管理上の諸課題について きた。 【学びに向かう力、人間性等 作物に興味・関心を示し、 | 境を多面的・科学的に考察し、想定さ 整理し、解決に向け、創造的に解決で | 0 | 0 | 0 | |
| | ・作物の特性や生育環境・管理に関する実践的な知識を身 につけさせ、管理の原理や方法等を理解する。 ・自らの課題に基ちき、適切な課題を設定し、実施に向け た計画を立案するための思考・判断・表現できる力を身に つける。 ・ 栽培管理について科学的・合理的に判断し、生育段階や 環境条件に応じた適切な処置をする能力を身につける。 | 「栽培と利用」 ・草花(参生を一年草) 播種、鉢上げ、迫肥、 徒長、切り戻し、花壇 ・草花(相様草) さし芽、鉢上げ ・作物(ケラモロコシ) 板種、追肥、土寄せ、 マルチング、播種、 追肥、収穫 | 的な内容を理解するとともに. 【思考力、判断力、表現力等 作物の特性や育成と環境要 を発見し、科学的根拠に基づし 【学びに向かう力、人間性等】 | 素、生産計画と工程管理に関する課題 いて創造的に解決できた。 素、生育と環境要素、生産計画と工程 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| | 定期考査 | | | | 0 | 0 | | 2 |
| | ・作物に異味間心を持つ。 ・作物の特性や管理、及び生育に影響を及ばす環境要因について科学的に提え、主体的に学ぶ意象と態度を制につける。 中作物の特性や音響、及び生育は必要があり、科学的に考察し、議開題を整理し、解決に向けた具体的な収組を考え、発表により表現できる。 ・作物の特性や生質環境・管理に関する基礎的な知識を考につけるとともに、技術の仕組みを理解する。 | 「栽培の基礎」 ・作物教培と環境 ・作物の主尊を支える土 ・作物の繁殖 ・作付体系と作型 | 術を身についた。 【思考力、判断力、表現力等】 作物栽培とそれらの生育環境を多面について整理し、解決に向け、創造的 【学びに向かう力、人間性等】 | る基礎的なことを理解するとともに、関連する技 め、科学的に考察し、想定される管理上の諸謀題 に解決できた。 や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因につ 組めた。 | 0 | 0 | 0 | |
| 2 学 明 | ・作物の特性や生質複雑、管理に関する実践的な知識を身につけさせ、管理の原理や方法を全部する。 ・自らの機関に基づき、適切な課題を設定し、実施に向けた計画を立案するための思考・判断・表現できる力を身につける。 ・ 数特書展につい代学的・合理的に判断し、生育政器や偏瘫条件に応じた適切な効果をする能力を身につける。 | 「栽培と利用」 ・ 草花(秋まき-年草) 香種、禁上げ、追肥、 切り戻し、花堆 海心、おい代地理 東花(水性地) 種之付け 作物 (ハクサイ) 播種、育亩、害虫防除 | 【思考力、判断力、表現力等】 作物の特性や育成と環境要素、生産 拠に基づいて創造的に解決できた。 | 計画と工程管理について基礎的な内容を理解する。 ・ 計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根 と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ・食・農業の駅水や輸向。 顕観に関心を持たせ、主体的に学び駅水しようとする音楽と観度を発行づけさせる。 ・地域環境・農業、生活に関する護康期の解水を目指し思考を深めさせ、 基礎的な知識と技術をもとに合理的に判断し、その課程や結果を通知に実 関する力を停止つさせる。 ・地域環境・農業、生活に関する資料や情報を収集し、通切に選択して活 用する力を伸ぶつけさせる。 ・食と農業の動向と舞蹈に関する遅枝的な知識を挙につけさせ、農業の社 会的な役割・環境・暮らしとの関係を理解させる。 | ・地域の農業と環境について | る。 【思考力、判断力、表現力等】 私たちの暮らしと農業・農村に関す 造的に解決する。 【堂がに向かう力、人間性器】 | て理解するとともに、関連する技術を身につけ る課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて割 て自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 | 0 | 0 | 0 | |
| | 定期考査 | | | | 0 | 0 | | 2 |
| | ・作物に興味関心を持つ。 ・作物の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に提え、主体的に学ぶ憂欲と態度を身につける。 ・作物栽培とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、発表により表現できる。 ・作物の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、技術の仕組みを理解する。 | 「栽培の基礎」 ・作物の育種 | ともに、関連する技術を身に「思考力、判断力、表現力等」 作物栽培とそれらの生育環 れる管理上の諸課題について きた。 【学びに向かう力、人間性等 作物に興味・関心を示し、 | 境を多面的・科学的に考察し、想定さ 整理し、解決に向け、創造的に解決で | 0 | 0 | 0 | |
| 3 学 明 | ・作物の特性や生育環境・管理に関する実践的な知識を身 につけさせ、管理の原理や方法等を理解する。 ・自らの課題に基づき、適切な課題を設定し、実施に向け た計画を立案するための思考・判断・表現できる力を身に つける。 ・ 栽培管理について科学的・合理的に判断し、生育段階や 環境条件に応じた適切な処置をする能力を身につける。 | ・作物 (ジャガイモ) 植え付け準備 植え付け ・花壇用草花の栽培と利用 交流授業 | 的な内容を理解するとともに、 【思考力、判断力、表現力等 作物の特性や育成と環境要 を発見し、科学的根拠に基づし 【学びに向かう力、人間性等 | 素、生産計画と工程管理に関する課題 いて創造的に解決できた。 素、生育と環境要素、生産計画と工程 | 0 | 0 | 0 | 1 |

1 合計 70

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 農業 科目 農業と環境(地域)

教 科: 農業 科 目: 農業と環境(地域) 単位数: 単位

対象学年組:第 1 学年 1 組

教科担当者: (土屋)

使用教科書: (実教出版「農業と環境」

教科 農業

の目標: 【知 識 及 び 技 能 】 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 農業と環境(地域)

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|-----------------------|--|
| 農業の地域資源分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | 業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ | 農業の地域資源分野について基礎的な知識と技術 を実際に活用できるよう自ら学び、農業の振興や 社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養 う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------|--|--|--|---|---|---|---------------|
| 1 | ・人間と植物・動物のかかわりについてりかいするとともに、関連する技術を身に付けさせる。 ・人間と植物・動物のかかわりに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けさせる。 ・人間と植物・動物とのかかわりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る。 | 「人間と植物・動物とのかかわり」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 【知識・技能】 人間と植物・動物とのかかわりについて十分 に理解して活用し、新たな知識と技術の習得 を目指して取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】 十分に地域資源に関する課題に興味をもち積 権的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・態働的に学習活動に取り組み自分の 意見を持とうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| 学期 | ・農業と食料供給について理解するとともに、関連する技術を身に付けさせる。 ・農業と食料供給に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けさせる。 ・農業と食料供給について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る。 | 「農業と食料供給」 | 【知識・技能】 農業と食料供給について十分に理解して活用 し、新たな知識と技術の習得を目指 して取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】 農業と食料供給に関する課題に興味をもち積 極的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に学習活動に取り組み自分の 意見を特とうとしている | 0 | 0 | 0 | |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 2 |
| 2 学 | ・農業と農村について理解するとともに、関連する技術を身につけさせる。 ・農業と農村に関連する護額を発見し、 科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けさせる。 ・農業と農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る。 ・これからの社会と農業・農村について理解するとともに、関連する技術を | 「農業・農村の役割」 ・椿油製造と工場見学 「これからの社会と農業・農村」 | 【知識・技能】 農業・農村の役割について十分に理解して活 用し、新たな知識と技術の習得を目指して取 り組もうとしている。 【思考・判断・表現】 農業・農村の役割に関する課題に興味をもち 積極的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に学習に取り組む態度】 意見を持とうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| 期 | ・これからの社会と農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けさせる。 ・これからの社会と農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力を身に付けさせる。 | | 入間ではいる からしかからいた (大学の) では では できます できます できます できます できます できます できます できます | 0 | 0 | 0 | 2 |
| - | ・自然環境とその調査、改善方法につ | 「地域資源の調査」 | | | | | |
| 3 学 期 | ・日が原境とていっては、 | ・椿ガイドの実践 「農業と環境のプロジェクトの実 際」・地域の素材を活かした商品開発 | | 0 | 0 | 0 | 17 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 合計 70 |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 農業 科目 農業と環境 (畜産)

教 科: 農業 科 目: 農業と環境(畜産) 単位数: 2 単位

対象学年組:第 1学年 1組

教科担当者: (梅田)

使用教科書: (実教出版「農業と環境」)

教科 農業 の目標:

【知識及び技能】 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けようとする。

【思考力、判断力、表現力等】 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かうカ、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 農業と環境(畜産) の

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------|--|--|---|---|---|---|----------|
| 1 学 期 | ・農業や環境は人間生活の影響を受け、相互に影響しあう関係にあることを理解させる。 ・農業の学び方の核となるプロジェクト学習法について関心をもち、実践と検証への意欲と態度を身に付けさせる。 ・家畜の特性や管理、畜産物の加工について主体的に学ぶ態度と意欲を身に付けさせる。 | 第1章 農業と環境を学ぶ 1 農業学習とは何か 2 農業と環境の学び方 第3章 栽培と飼育の基礎 3 家畜の特性と飼育 ・農業と環境の学び方 (座学) ・鶏卵加工実習(実習) ・家畜の管理実習(実習) ・家畜の管理実習(実習) ・家畜の管理実習(実習) ・貴業クラブ活動とプロジェクト 学習(座学) ・家畜の健康管理と衛生(座学、実習) | 【知識・技能】 農業と環境における畜産分野の学び方について理解するとともに関連する技術等を身に付けようとしている。 【思考・判断・表現】 農業と環境における畜産分野に関する課題に関連な・関心を持ち解決しようとする姿勢をもって取り組んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】自らが主体的・協働的に学習に取り組み、科学的根拠に基づいた自分の意見を持とうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 2 |
| 2 学期 | - 農業の学び方の核となるプロジェクト学習法について関心をもち、実践と検証への意欲と態度を身に付けさせる。 ・家畜の特性や管理、畜産物の加工について主体的に学ぶ態度と意欲を身に付けさせる。 ・地域の畜産とその特徴を理解するともに、課題研究等につながる課題意識を醸成させる。 | 第3章 栽培と飼育の基礎 3 家畜の特性と飼育 第4章 栽培と飼育と環境の往路 ジェクト ・家畜の飼育管理(実習) ・生産品販売実習(実習) ・鶏の解体と加工処理(実習) ・地域の畜産とその特徴(座学) | 【知識・技能】 農業と環境における畜産分野の学び方について理解するとともに関連する技術等を身に付けようとしている。 【思考・判断・表現】 農業と環境における畜産分野に関する課題に関連、関心を持ち解決しようとする姿勢をもって取り組んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自らが主体的・協働的に学習に取り組み、科学的根拠に基づいた自分の意見を持とうとしている。 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 2 |
| 3 学期 | ・農業の学び方の核となるプロジェクト学習法について関心をもち、実践と検証への意欲と態度を身に付けさせる。 ・家畜の特性や管理、畜産物の加工について主体的に学ぶ態度と意欲を身に付けさせる。 ・地域の畜産とその特徴を理解するとともに、課題研究等につながる課題意識を醸成させる。 | 第3章 栽培と飼育の基礎 3 家畜の特性と飼育 第4章 栽培と飼育と環境の往路 ジェクト ・家畜の種類と特徴 (座学) ・飼養環境の改善と整備 (座学・ 実習) ・家畜の排せつ物と環境 (座学) ・鶏の消化器官と生殖 (座学) ・鶏のワクチン接種と衛生 (座学・ 実習) | 【知識・技能】 農業と環境における畜産分野の学び方につい て理解するとともに関連する技術等を身に付 けようとしている。 【思考・判断・表現】 農業と環境における畜産分野に関する課題に 興味・関心を持ち解決しようとする姿勢を もって取り組んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自らが主体的・協働的に学習に取り組み、科 学的根拠に基づいた自分の意見を持とうとし ている。 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| | 定期考査・まとめ | | | 0 | 0 | | 2 合計 |
| | | | | | | | 70 |

年間授業計画

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科

農業 科目 総合実習 単位数: 2 単位 (農林科生は時間外1単位もあり)

教 科: 農業 科 目: 総合実習 対象学年組:第 1 学年 1 組

教科担当者:木村 土屋

梅田 使用教科書: (なし 教科 農業

の目標:

【知識及び技能】農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】農業に関する課題を発見し,職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 総合実習 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|----------|--|---|
| | 農業の各分野に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる 者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業の各分野について基礎的な知識と技術を実際に活用できる よう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取 り組む態度を養う。 |

| _ | | 16.00-7 | | Ι, | | 4 | 配当 |
|------|--|---|---|----|---|---|-------|
| F | 単元の具体的な指導目標 オリエンテーション | 指導項目・内容 農場案内、安全管理等説明 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 時数 |
| | オリエンアーン3ン A 野菜分野 「知識及び味能」 野菜共能の基礎的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 野菜生産の現状と誤題を認識させる。 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 展場条内、女主官程寺成明 野菜の種類 野菜の生育と栽培管理 播種、マルチング 歩行型トラクターの操作 野菜の収穫 | ■ 評価の概点 【知識・技能】 十分に農業の専門的な知識と器具・機器の使用 方法などの技術を十分に理解して活用し、新た な知識と技術の習得を目指して学習に取り組ん でいる。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 1 学期 | 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 草花栽培の基礎 春まき1年草の栽培 草花の利用 | 【思考・判断・表現】 十分に農業に関する課題に興味をもち、積極的 に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 中心となって主体的・協働的に学習に取り組 み、科学的根拠に基づく自分の意見を持とうと | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | (畜産分野 「知識及び技能」 家畜飼育の基礎的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 畜産業の現状と課題を認識させる。 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 家畜への接し方と管理の方法 飼育施設器具の名称と使用方法 家畜の種類と鶏の品種 | している。 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 定期考査 (筆記および実物鑑定) | | | 0 | 0 | | 2 |
| | A 野菜分野 【知識及び技能】 野菜栽培の基礎的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 野菜生産の現状と課題を認識させる。 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 野菜の生育と栽培管理について トマト、キュウリの手入れと収穫 | | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 2 学期 | 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 秋まき1年草の栽培 草花の利用 学校祭に向けての準備 乗用トラクターの操作方法 | | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | C 審産分野 【知識及び技能】 家治飼育の基礎的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 畜産薬の現状と課題も記載させる。 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 家畜の飼育管理実習 適の解体と加工 ベーコンの製造実習 学校祭生産品販売 | | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | 定期考査 (筆記および実物鑑定) | | | 0 | 0 | | 2 |
| L | A 野菜分野 【知識及び技能】 | 培養土づくり | 評価の観点 | | | | |
| | 野菜栽培の基礎的大知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 野菜と重心の現状と課題を認識させる。 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 野菜、年間のまとめ | 【知識・技能】 十分に農業の専門的な知識と器具・機器の使用 方法などの技術を十分に理解して活用し、新た な知識と技術の習得を目指して学習に取り組ん でいる。 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 2 | B 草花分野 (知識及び甘¢能) 草花栽培の基礎的な知識と技術を習得させる。 (思考力、判断力、表現分等) 花を主確の現状と課題を認識させる。 (学びに向かう力、人間性等) 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 草花の装飾 草花栽培のまとめ | 【思考・判断・表現】 十分に農業に関する課題に興味をもち、積極的 に解決しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 3 | o starte (A Miles | | 【主体的に学習に取り組む態度】 「中心となって主体的・協働的に学習に取り組 | | | | |
| 期 | (畜産分野 「知識及の甘疾能」 家畜飼育の基礎的な知識と技術を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 畜産業の現状と課題を認識させる。 【学びに向かう力、人間性等】 地域農業の現状と課題に興味を抱かせる。 | 畜産加工品の製造実習 家畜の飼育管理実習 放牧場の維持管理実習 放牧場の維持管理実習 家畜管理のまとめ | み、科学的根拠に基づく自分の意見を持とうと している。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 定期考査 (筆記および実物鑑定) | | | 0 | 0 | | 2 |
| | | | | | | | 合計 70 |
| | | | | | | | 10 |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 家庭 科目 ファッション造形基礎

教 科: 家庭 科 目: ファッション造形基礎 単位数: 2 単位

対象学年組:第 1 学年 1 組~ 組

教科担当者: (1組:坂本)

使用教科書: (ファッション造形基礎/実教出版

教科 家庭 の目標:

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協 働的に取り組む態度を養う。

科目 ファッション造形基礎 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作 | 被服製作やデザインに関する課題を発見し、 | 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッ |
| などについて体系的・系統的に理解するととも | ファッションの造形を担う職業人として合理的 | ションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態 |
| に、関連する技術を身に付けるようにする。 | かつ創造的に解決する力を養う。 | 度を養う。 |
| | | |
| | | |
| | | |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|-----------|---|-----------------------------|---|---|---|---|------|
| 1 | ・縫製に関する基礎的な事項を理解し、技術を習得する。 ・ 被服材料の種類や特徴に関して理解し、製作する被服の用途に適した被服材料を選択できる。 ・ 意欲的に裁縫技術習得に取り組んでいる。 | ・裁縫道具やミシンの名称 | 【知識・技能】 被服の素材、縫製に関する道具の名称・用途 を理解している。 【思考・判断・表現】 素材を理解し基礎的な縫製技術を用い、個人 の創意・工夫を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 素材の特性・縫製に関心を持ち、自ら学ぶ態 度を示している。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 1 学 期 | ・ミシンの基礎的知識・技術を習得する。 ・基礎的な縫製技術を用い、個人の 創意・工夫を表現することができ る。 ・ミシンでの衣服製作に意欲的に取 り組んでいる。 | ・平面構成の衣服製作 (エプロン・三角巾の製作) | 【知識・技能】 ミシンの基礎的な事項を理解し技術を習得している。 【思考・判断・表現】 道具を適切に活用し、被服を構成できる。思 考・判断の過程を文章で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣服製作に意欲的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| | 定期考査 | ・筆記試験 ・実技試験 | | 0 | 0 | | 2 |
| 2 | ・下半身を覆う衣服の構成と動作への適応について理解する。立体構成衣服の製作技術を習得する。 ・基礎的な縫製技術を用い、個人の創意・工夫を表現することができる。 | ・洋服の製作 (ハーフバンツの製作) | 【知識・技能】 衣服の構成と動作への適応について理解する。立体構成を動作への適応について理解する。立体構成衣服の製作技術を習得する。 【思考・判断・表現】 道具を適切に活用し、被服を構成できる。思考・判断の過程を文章で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣服製作に意欲的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| 期 | ・手縫いやミシンの基礎的な技術を向上させる。 ・製作物の構成を理解し、指示通りの製作を行うことができる。 | ・被服製作技術検定4級 | 【知識・技能】 手縫いやミシン縫いの基礎的な技術が検定基準以上である。 【思考・判断・表現】 道具を適切に活用し、被服を構成できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 検定合格に向けて意欲的に取り組んでいる。 | 0 | | 0 | 6 |
| | 定期考査 | • 実技試験 | | 0 | 0 | | 2 |
| 3 | ・下半身を覆う衣服の構成と動作へ の適応について理解する。立体構成 衣服の製作技術を習得する。 ・基礎的な縫製技術を用い、個人の 創意・工夫を表現することができ る。 | | 【知識・技能】 衣服の構成と動作への適応について理解する。立体構成を取の製作技術を習得する。 【思考・判断・表現】 道具を適切に活用し、被服を構成できる。思 考・判断の過程を文章で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣服製作に意欲的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| 学 期 | 定期考查 | ・筆記試験 | | 0 | 0 | | 1 合計 |
| | | | | | | | 70 |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 家庭 科目 フードデザイン 教 科: 家庭 料 目: フードデザイン 単位数: 2 単位 対象学年組:第 1 学年 1 組~ 組 教科担当者: (1組: 濃田) (組:)(組:)(組:)(組:)(組:)(組:)

教科 家庭

が料 家庭 の目標:

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣

【知 鎌 及 び 技 能 】 食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づ いて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようと 「なる実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン の目標:

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|------------------|--|---|
| | 食生活全般に関する課題を発見することができる。栄 | |
| | 養、食品、調理等を体系的にとらえた上で、充実した 食生活を総合的にデザインし、表現できる。 | どについて関心をもち、王体的・協働的・積極的に取 り組む態度を養う。 |
| OIXHIE SIC SIVO. | 及工力を総合的にケットラして収集できる。 | 7 MICHAEL R 7 s |
| | | |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|------|--|--------------|---|---|---|---|---------------|
| | 食事の意義と役割、食を取り巻く 現状について、日常生活と関連づ けて理解する。 | ・健康と食生活 | 【知識・技能】食業の資素と役割、食を取り着く現状について、各種データを送入用り増加(ている)。 【思考・判断・表現】各種データを分析思考し、その内容を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む極度】食を取り巻く現状に関心を深め、問題意識を持っている。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 各栄養素の種類と栄養的な意義に ついて理解する。 主き主な食品について、特徴と その調理性、加工について理解し た上で、調理に活かせる。 | ・栄養素・食品の特徴 | 【知識・技能】 五大栄養素の働きと、各食品に含まれる栄養素を理解している。食品の特徴と調理性を理解している。 【思考・判断・表現】食品の調理性を実際の関係における現象と合わせて思考し、レポートに正しく表現できる。 「主体的に等記」取り組む態度】食品の調理性の理解と活用に意欲的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 1 学期 | 調理及び調理器具の目的や活用 法、調理の方法を理解し、実際の 調理に括かせる。 | - 調理操作 | 【知識・技能】調理の基本知識・技能を身につけている。 【思考・判断・表現】調理器具の活用や調理について、その場その 場で講師に基づいて思考し、適切に判断しば用しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】調理技能の向上に意欲的である。 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | ・食品の調理性をかまえた、適切 な調理ができるようになる。 ・食品衛生と安全に十分配慮し て、食品を適切に扱うことができるようなる。 合料理に合わせた盛りつけや、 目的に合った食卓を整えることが できる。 | - 調理実習 | 【知識・技能】会品の調理性をあまえた適切な調理技能を身につけている。各料理に合わせた盛りつけができる。 【思考・判断・実現】食品の調理性や食品衛生を考えながら適宜判断し、調理しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】調理実習に意欲的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| | 定期考查 | 筆記試験 実技試験 | | 0 | 0 | | 2 |
| 2 | さまざまな食品について、特徴と その調理性、加工について理解し た上で、調理に活かせる。 | ・食品の特徴 | 「助薬・技能」永弘の特徴と関連性と関係している。 出来す・制等・表現】永弘の調理性と実際の調理における現象と合 とせて関考等とは、 はまない。学習に取り組む態度】 永弘の調理性の理解と活用に意飲 的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 学期 | 調理器具の目的や活用法、調理の 方法を理解し、実際の調理に活か せる。 | - 調理操作 | 【知順・技能】 調明の基本知識・技能と身につけている。 【思考・訓練・夫担】調報展りの信用で開催しいて、その場その 様で開闢に基づいて思考し、適切に判断し活用しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】調理技能の向上に意欲的である。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 調理器具の目的や活用法、調理の 方法を理解し、実際の調理に活か せる。 | • 調理実習 | 【知識・技能】調理の基本知識・技能を身につけている。 【思考・判断・表現】調理部員の信用や調理について、その場その 場で増加に売いて思考し、通りに判断し活用しようとしている。 【主体的に学習に取り載む施技】調理技能の向上に意味的である。 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| | 定期考査 | 筆記試験 実技試験 | | 0 | 0 | | 2 |
| | さまざまな食品について、特徴と その調理性、加工について理解し た上で、調理に活かせる。 | ・食品の特徴 | 【知識・技能】調理の基本知識・技能を身につけている。 (恩・判断・表現】調理器具の信用等側を開いていて、その場その 緒で開始にあって思考し、強切に判断し指用しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】調理技能の向上に意欲的である。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 献立を作成するための留意点を理 解し、望ましい献立作成ができる 能力を身につける。 | • 献立作成 | 【知識・技能】栄養バランスや味の調和がとれた非当飲立を立て、 調理ができる。 【思考・判断・表現】年齢、性別に合わせて、栄養バランスを考慮 した非当飲立を考えている。 【主体的に学習に取り組む極度】弁当飲立作成に意欲的である。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 3 学期 | 調理器具の目的や活用法、調理の 方法を理解し、実際の調理に活か せる。 | - 調理実習 | 【知順・技能】 調明の基本知識・技能と身につけている。 【思考・訓練・夫担】調報展りの信用で開催しいて、その場その 様で開闢に基づいて思考し、適切に判断し活用しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】調理技能の向上に意欲的である。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | 定期考查 | 筆記試験 実技試験 | | 0 | 0 | | 2 合計 70 |

| Г | | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 18 | 配当 |
|-------|---|--|---|-----|---|----|-------|
| F | 単元の具体的な指導目標 ・生活需素情報」を坐点にあたり、坐寄の含薬や内容、坐寄ガ油 | | 評価規率 「生活産業情報」に関心を持ち、学ぼうとする意欲を感じられる。 | 711 | | | 時数 |
| | 生活産業情報」を学ぶにあたり、学習の意義や内容、学習方法 や評価の方法、校内の設備や機器の利用のおける注意事項などを 選解する。 | 生活産業情報を学ぶにあたってのオ リエンテーション | | | | 0 | 1 |
| | 情報を必要員したことによる私たちの生活や楽園における変化と、その問題点について理解したうえて、その解決に向けて考察する。 | 第1章 情報化の進展と社会 1節 情報化の進展と社会 | 情報化の連携における現状、特段インターネットの利用が幅広い世代におたっていることを理解することができる。 情報化の連携に対い理解し、自ら調べることができる。 | 0 | | 0 | 1 |
| | ・ 衣食住、保育、家庭看護及び介護などのヒューマンサービスに かかわる生活産業の各分野で、情報技術がどのように利用されて いるかを、具体例とともに理解する。 | 第1章 情報化の連展と社会 2節 生活密薬における情報化の進 展 | 生活産業の各分野で、情報技能が緩々な形で利用されていることを理解することができる。 生活産業において利用されている事例を調べて発費することができる。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ネットワーク社会のモラルとマナーについて、具体的な事例を 請ええて理解する。 | 第2章 情報モラルとセキュリティ 1節 情報モラルとマナー | - NSSなどの利用において、どのようなことに注意しているのかをグループで話し合い、検査する。 ・ 集人情報がなす意要であるのかについて、理解することができる。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ・ネットワークも社会の一部であり、サイバー犯罪も存在することを事例をもとに理解する。 | 第2章 情報モラルとセキュリティ 2節 情報通信ネットワークのしく みとセキュリティ管理 | ・今日の社会では、情報機能ネットワークは大かせない技術であり、36に広範女派 用が認込まれていることを機動する。 ・サイバー写廊に対して値ゃ人がどのような対策や工夫をしているのかを踏し合って、差費する。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ・情報機器の基本構成(ハード・ソフト)と、それぞれの機能と 動作を理解する。 | 第3章 コンピュータとプログラミ ング 1節 コンピュータの基本構成 | ・ハードとソフトからコンピュータは構成され、それぞれの役割があることを理解する。 ・ 春夜なコンピュータを簡極的に調べて、どのような構成からなっているのかをまと めることができる。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 1 学 類 | | 第3章 コンピュータとプログラミ ング 2節 モデル化とシミュレーション | ・モデル化とかる。レーションの必要性について理解している。 ・支持権ソフトを担して、実際にさまざまな数値を入力することで結果が変動する ことを構かめようとする。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | ブログラミングに関する基礎的、基本的な知識を学び、簡単な アルゴリメムで表現した処理手順を実行することで、自動的に処理ができることを理解する。 | 第3章 コンピュータとプログラミ ング 3節 アルゴリズムとフローチャー ト | - アルゴリズムの3つの基本構造を理解し、それぞれの特徴を説明することができる。 | 0 | 0 | | 2 |
| | 様々なメディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を理解する。 | 第4章 生活産業におけるコミュニ ケーションと情報デザイン 1節 メディアの特性 | ・伝達、記憶、表現するためのメディアがあることを理解する。 | 0 | | | 2 |
| | ・生活産業の中で消費者と企業がどのようにコミュニケーション に利用しているかも連解する。 | 第4章 生活産業におけるコミュニ ケーションと情報デザイン 2節 コミュケーション | ・コミュニケーションは生活をする上で必要不可欠であることを理解する。 ・ユニバーサルデザインについて、身立な勢をあげて設備することができる。 | 0 | 0 | | 2 |
| | ・ナベての人に必要な情報を伝えるための工夫が求められるとと もに、 課題もあることを理解する。 | 第4章 生活産業におけるコミュニ ケーションと情報デザイン 3節 情報デザインの課題 | ・文字(信頼)による伝達では限界があり、誰にでも伝わるための工夫が必要である ことを理解する。 ・取り扱い表示例をもとに、なぜ変更されたのかを考察する。 | 0 | 0 | | 2 |
| | ・文書作成ソフトの概要を理解し、操作力法を習得する。 ・文字入力を構実に行う。 | 第5章 各種アプリケーションの基 未操作 第5章 各種アプリケーションの基 未操作 | 文章作成ソフトの機能を提解し、操作することができる。 ・同聴に借って養趣を作成するよう自ら取り組んでいる。 | 0 | | 0 | 5 |
| | 定期考查 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | ・表計算フフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・適切な関数を選択し、利用できるようになる。 | 第5章 各種アプリケーションの基 本機作 2節 表計算ソフトの利用 | ・表音集ソフトの機能を増加し、操作することができる。 ・時間に沿って複数を作成するよう自ら取り組んでいる。 | 0 | | 0 | 6 |
| | 表計算マクロ言語の模型について理解する。 | 第5章 各種アプリケーションの基 本機作 3節 プログラミングソフトの利用 | ・ 東井等マクロ 高部の極要について理解する。 ・ 例際に合って課題を作成するよう自ら取り組んでいる。 | 0 | | 0 | 4 |
| 2 学 | ・ブレゼンテーションソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・実際のブレゼンテーションにおける注意点を理解する。 | 第5章 各種アプリケーションの基 本操作 4節 プレゼンテーションソフトの 利用 | ・デレゼンテーションソフトの機能を理解し、操作することができる。 ・開版に沿って課題を作成するようおり取り組んでいる。 ・光波を行う節の注意法について具体的に考集している。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 斯 | ・画像処理ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 | 第5章 各種アプリケーションの基 本操作 5節 画像処理ソフトの利用 | - 画館処理/フトの機能を理解し、操作することができる。 ・同館に沿って機能を作成するよう日も取り組んでいる。 | 0 | | 0 | 4 |
| | ・動順編集ソフトの概要を理解し、操作力法を習得する。 | 第5章 各種アプリケーションの基本操作 6節 動画に関連したアプリケーションの利用 | ・動画編集ソフトの機能を理解し、操作することができる。 ・時間に沿って開墾を作成するよう自ら取り組んでいる。 ・時間に沿って開墾を作成するよう自ら取り組んでいる。 ・1をパージの構造(トップページ、サブページ)を開修している。 | 0 | | 0 | 4 |
| | 「東心ベージ作成ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 「東心ベージの構成を理解する。 「東心ベージの構成を理解する。 「京原常春 | 第5章 各種アプリケーションの基本操作 不勝 Webページ作成ソフトの利用 | ・****・*** ンの梅迦 (トワノハージ、ザブハージ) を理解している。 | 0 | | 0 | 3 |
| L | | | | 0 | 0 | | 1 |
| 3 学 類 | うになる。 ・伝えたい情報を効果的に発信する方法について理解し、それを 電路できる技術を食どつける | 第6章 生活産業に関連した情報デ デイン 1節 食生活関連分野での利用 2節 夜生活関連分野での利用 3節 任生活関連分野での利用 4節 ヒューマンサービス関連分野 での利用 5節 消費生活関連分野での利用 | ・関心のある分野について、私た私が容さを看銘、アーマを設定する。 ・アーマにあって、金数化物理や収集するとかできる。 ・アーマにあって、金数化物理や収集するとかできる。 収集した情報を処理し、どのように表意すべきか考案する。 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| | | | | | | | 合計 70 |

 高等学校
 令和6年度(1学年用)
 教科
 家庭
 科目
 家庭基礎

 教科:
 家庭
 科目:
 家庭基礎
 単位数: 2 単位

 対象学年組:
 第 1 学年
 1 組~
 組

 教科担当者:
 (1組: 演出)
 (組:)
 (組:)
 (組:)

使用教科書: (未来につなぐ家庭基礎365 (教育図書)

教科 家庭 の目標:

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 【知識・技能】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【思考・判断・表現】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的 に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標: 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|------|--|------------------|---|---|---|---|------|
| | 自己理解を深めるとともに青年期の発達課題を理 解し、将来の見通しを立てる。 | ・青年期の自立と家族・家庭 | 知識・技能」青年期の課題を理解し、自分や家庭を取り巻く社 会についで理解している。 「思考・判断・長現」自己理解を他者に伝えることができる。自 己の生き方について考え、発来することができる。 「主体的に学習に取り組む極度」自分らしい生き方について考え 行動しようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | ・子どもの心身の発達を理解し、子どもを産み育 でることの意義を理解する。 ・子どもを育てる環境について考え表現できる。 | ・子どもの生活と保育 | 知識・技能 下ともの心身の発達を理解し、子どもを産み育てることの意義を 理解して、一般である。 「思考・判断・表現] 子どもを育てる建模について考え表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの発達と子どもを取り巻く環境に関心を持っている。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 1 学期 | ・生涯発達を理解し、高齢者との適切なかかわり 方を習得する。 ・高齢化や福祉サービスの状況など超高齢社会に ついて考えを深める。 | ・高齢期の生活と福祉 | 【知識・技能】 生涯発達を理解し、高齢者との適切なかかわり方を習得してい (思考・判断・表現) 電高齢社会について考えを探めている。 【主体的に学習に取り組む極度】 高齢期を肯定的にとらえ、関心を深めている。 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | ・家庭や地域における共生、共同、福祉が果たす 役割について理解し、地域活動やボランティアに 関心をもつ。 ・除がい者への簡単な介助方法を習得する。 | ・共生社会と福祉 | 【知識・技能】 家庭や地域における共生、共同、福祉が果たす役割について理解 している。 【思考・判断・表現】 共生のために自分ができることについて考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 地域活動やボランティアへの関心を高めている。 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | ・被服の機能や手入れや保存について理解する。 ・被服が関わる安全や環境について考えを深め、 実生活に活かす。 | ・衣生活と健康 | 【知識・技能】 被服の機能や手入れや保存について理解している。簡単な被服製 作の技術を習得している。 【思考・判断・表現】 成服が関わる変や全環境について考えを深め、実生活に活かすこ とができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 被服生活に対し意欲的に考えようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 2 学期 | ・住まいの機能について理解する。平面図を読み 取ることができる。 ・住まいと暮らし方について考えを深めている。 | ・住生活と住環境 | 【知識・技能】 住まいの機能について理解している。平面図を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 住まいと暮ちし方について考えを深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 安心して住める住環境について意欲的に考えようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | ・栄養素の種類と機能、主な食品について理解する。 ・食事摂取基準のめやすに合わせて献立作成ができる。 | ・食生活と健康 | 「知識・技能」 栄養素の種類と機能、主な食品について理解している。 【思考・判断・表現・ 長事摂取基準のめやすに合わせて献立作成ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実習等に寛歓的に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| | 消費者問題や家計の管理を理解している。消費者問題への対処や責任ある消費者の行動について考えを深める。 | ・消費生活と意思決定 | 【知識・技能】 消費者問題や家計の管理を理解している。 【思考・制師・表現】 ・消費者問題・の対処や責任ある消費者の行動について考えを深 める。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・消費者問題や消費者行動を自分のこととして考えようとしてい る。 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 3 学期 | ・消費行動が環境に与えた影響やグリーンコンシューマーの必要性を理解する。 ・持続可能な社会を実現するための提案を考える。 | ・持続可能なライフスタイルと環境 | 【知識・技能】 消費行動が環境に与えた影響やグリーンコンシューマーの必要性 を理解している。 【思考・判断・表現】 所統可能な仕途を実現するための提案を考える。 【主体的に予報に取り組む施度】 環境負荷の少ない生活の実践について考えようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | • 定期考查 | | | | | | 1 合計 |
| | | | | | | | 70 |

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科

総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教 科: 総合的な探究の時間 科 目: 総合的な探究の時間 単位数: 1 単位

対象学年組:第 1学年 1組~ 3組

教科担当者:全教員 使用教科書: (なし

)

教科 総合的な探究の時間 の目標:

【知 識 及 び 技 能】 地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、 は域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。

【思考力、判断力、表現力等】 地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査 して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。

【学びに向かうカ、人間性等】 地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

科目 総合的な探究の時間

の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|-----------------------|---|--|
| 程において、課題の解決に必要な知識及び技能 | ら問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に | 地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|------|--------------------------------------|--|--|---|---|---|----------------|
| 通年(四 | | ・アーツプログラム ③国際理解講演会(進路) | 数値評価ではなく文章記述による評価 【知識・技能】 地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらな人なの情でできたか。 【思考・判断・表現】 地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから間いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 地域や社会の人、もの、ことについ互いの探究活動に主体的・協働的に取り組む態度】 地域や社会の人、もの、ことについ互いのなどを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を身につけることができたか。 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| 程 | 別上本形宗 【知識及び技能】 郷十二能に関する興顆の発見と解 | ③各地区リハーサル ④郷土芸能祭 ⑤郷土研究振り返り ⑥報告書作成 | | 0 | 0 | 0 | 15 合計 35 |